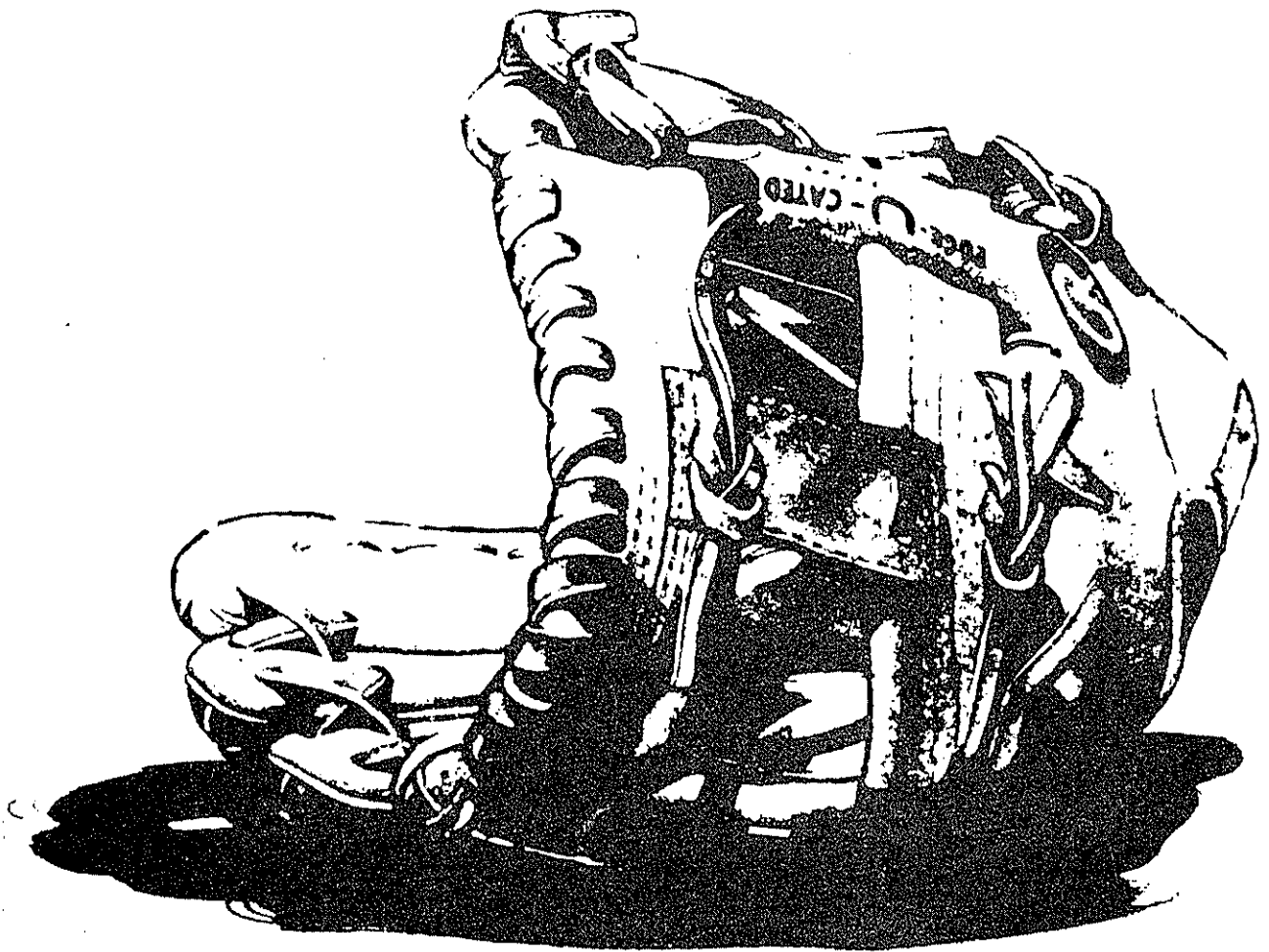


100試合達成記念



THE BASEBALL
BERMUDAS

1983



バミューダズ100試合達成記念

BERMUDAS

目次

バミューダズの諸君へ **2** 監督 塩瀬正明
—100試合達成を記念して—

バミューダズの顔 **4**

遊びに手を抜かない **6** 内山秀敏
熱狂草野球軍団、バミューダズ

名球会規約 **7**

球団史 **8**

対戦成績 **22**

バミューダズ技術論 **26** 建部英敏

歴代マネージャー紹介 **27**

選手紹介 **28**

記録 **37**

バミューダズの諸君へ

— 100試合達成を記念して —

監督 塩瀬正明

あれからどの位経ったことだろうか。つい昨日のようにも思えるし、また何億年も前のことのようにも感じる。

1982年11月6日、私は横浜球場で宿毛スポーツが草野球日本一になるのを見た。全国の高校球児にとって甲子園が夢であり青春のシンボルであると同様に、われわれ草野球戦士にとって横浜球場はメッカであり青春である。そのスタジアムに立たずんで、美しい涙を見た、そして私も泣いた。

日本一になるにはさぞかし辛い涙を何度も流したことだろう。このレベルになると野球の基本は堅い守りにあることを見せつけられた。自己鍛錬はもとより仲間との励まし合い、助け合いを他のチームの何倍も積み重ねてきたことだろう。やがて迎える栄光。主審が試合終了を告げた時、何年も忘れていた清らかな熱い涙が留処もなく若者の赤き頬を伝わり落ちる。そして歓喜のあまり声も出せず抱き合って互いの意思を知らせあうナイン。この瞬間にそれまでの苦しい思い出が消えてゆく。

さて、わがBermudasは創設以来7年にしてようやく100試合を戦い抜いてここまでやってこられた。これ迄の歩みをこの小冊子により振り返る時、感無量のものがある。熱いものが込み上げてくるのを禁じ得ないのである。

ホームグラウンドである鶴ノ木の麻布学園グラウンドで、味方のエラー続出に泣いたこともあった。また“いとしい子供たち”を私が罵声とノックの雨でシゴいたこともある。夏合宿で私が右脚を折った時救急病院に運んでくれたきみたちは、私に投手として再起を期す勇気を与えてくれた。佐久の合宿で夜の更けるのも忘れて歌い、笑い転げたこともある。サンケイ・スポーツ大会に参加し「サンスポ」の活字に載ったわれわれは、ヒーローになった気分になったものだ。

各々の試合で勝った喜びも敗けた悔しさも師走のドラフト会議では酒の肴となり、翌年への闘志を掻き立ててくれたものだ。

歯が立たなかった佐久のルオーファミリーや羽田工場に恩返しが出来ようになり昨年は初参加の品川区2部リーグでベスト8入りを果たすまでに成長したのである。

100試合を経て今やバミューダズには伝統が確立したと断言できる。バミューダズ魂という不滅の伝統がそれだ。白球を追ってやって来たあいつは世界に散って行った。また別の意志ある若者が戦列に加わった。これからも人の出入りはあることだろう。しかし、誰もがいったんBermudasのユニホームを着るや野望とむき出しのバミューダズ魂を一投一打にかけてきた。あいつの顔、挙動、あの試合のあの場面とともに

に決して忘れてはならない大切なものはバミューダズ魂である。

チーム創設以来発行してきている「バミューダズ・タイムス」もチームと共に絶えることなく「オレの青春」の松明となってわれわれの行手を照らし人生の励みとなってくれることだろう。

私はこれまで「精神野球」をナインに対して掲げ「鬼の………」と言われることをむしろ誇りとしてきた。今もその気持ちに変わりはない。われわれは10代の若者ではない。肉体的には衰える一方の20代、30代そして40代の「若者」である。自らの意志と選択によってわがバミューダズで青春を燃焼させようとする戦士である。たかが草野球というなかれ。毎年毎年、自己鍛錬により「技を磨くことにより心も磨かれ、心を磨くことによって技もまた磨かれる」(宮本武蔵『五輪書』)ことを100試合の積み重ねの中で、われわれが身をもって確認しあうことが出来たことは何にも替え難い喜びであった。この喜びを1人でも多くの仲間と分かち合うために毎試合怒鳴っているのである。

バミューダズ魂というのは、言い代えれば偉大なるアマチュア精神である。「遊ぶように仕事をし、仕事をするように遊ぶ」という考えで

時間を2倍楽しもうとするのだ。不屈の闘争心とフェアプレイの精神は社会人としての要件でもある。バミューダズの諸君が、こうした精神を体得し、兄弟愛のような友情により頼もしい紳士に育つことを祈りたい。

最後になりましたが、これまで戦列に参加しチームを育ててくれた仲間たち、何かと励ましたり応援してくれたマネージャーたち、それに多くのバミューダズ・ファンに対して感謝の意を表したい。皆さん方の期待に応えるためにも、わがバミューダズは本物の草野球を目指して今日から200試合に向けての苦闘を始めなければならない。メンバーが揃わぬような惨めなことがないよう諸君の更なる奮気を促したい。

われわれがユニホームを脱ぐ時、それは青春への別れを告げる時である。私にとって試合に敗れることはこわくないが、ユニホームと別れる日が来るのは大へん辛いことである。その日が来るまで、わがバミューダズを引っばってゆく所存だ。明日のバミューダズは諸君の双肩にかかっている。われわれの努力で伝統を守り、チームを飛躍させようではないか。

バミューダズ魂万歳!

(1983年2月)

バミューダズの顔



昭和55年(1980)4月28日 月曜日

[illegible]

た。下手なほど、みんなが一層いいタマを授けてくれたからとれたんです」とほんまに。交代後はペンチで、もっぱらヤシ殻に徹していた。

▼第3回サンスポ野球大会(1980)



「墨手は女の子」

異色のバキューダス

○ソニー社の路線電話で構成しているパミューズには、
「紅蓮のレギエラがうたを
左大臣や子ささん」など、元ノボル
の選手。電音三人組などは、彼らは、実力、で選出された。
シムを獲得したという男子
部員もいる。この日の試合中
は皆無失点に出た山崎監督は、
「うま、エースの速球と鋭さは
は、攻撃を怠りません」とい
ふ。二七回目の一回戦では、腰が
痛いなていてはいない。」と、披露
のあと、新顔のエース
からわっていた。

昭和55年(1980)4月6日 目曜目



1981年夏 合宿
佐久千曲錦グランド▶

(1982.12.17)

バミューダ・タイムズ (106)

バミューダズ

品川リーグ(B)

ベスト8進出!

大橋・建部、初回到連打 鈴木、佐川急便を完封

塩瀬監督は、初めて迷った。今年監督に任せてから初めての
ことだ。―誰を代えようか? 最後の九人目が正体不明で胃の
痛などが多い。たまたまウソヘよう。ベンチには塩瀬、植田、内山
の三人が残っている。だが、見よ、グラウンドも、居山・斎藤・二重
コンビは十分に働き、渋谷・大橋・建部のクリーンアップが期待通り
の大活躍、下位打線には定藤・徳元・藤本・鈴木と並びクリーン
アップと見まがうばかりの攻撃軍だ。

十一月三日、品川リーグ(B)トーナメント 四回戦(品川球場)に
出場したバミューダズは超豪華メンバーがウエーミングアップ中
へ態勢で佐川急便と対戦。一回裏へ速攻で登った三塁と鈴木が
守りきって3-0で快勝。ベスト8に進出した。準々決勝は来春
行なわれる予定。

軟式野球品川リーグ(B) 四回戦
(十一月三日、天王洲球場)

佐川急便 ○○○○○○ ○ ○
バミューダズ 3 ○ ○ ○ ○ ○ X 3x

勝投手 鈴木 6勝0敗
敗投手 松原
勝利打点 大橋

一回裏のバミューダズの攻撃は
みごとであった。先頭打者居山は
ショートゴロ、二塁を渡る。おまじ
す、三塁に居山が俊足を生かして
二塁セーフ。続く斎藤は二番打者
の任務を十分に果たす。バミュー
ダズも二塁へ進んだ。

三番渡辺はまたもやショートゴロ。

そして再びショートエラー。一死
一・三塁とチャンスは広がった。
―ここで登場する。のはゆきの
大橋。期待に応えてみごと
レフト前ヒット。居山が生還
してまず一塁。さらに続く二
二重のチャンスに、三番建部
がレフトに長打、渋谷・大橋が
ホームインして一挙に三塁を
生取した。

バミューダズは試合開始のウエー
ミングアップ中、佐川急便は
試合開始直前にすべり込みでフ
ットの違ひも初回の攻勢に影響を
与えたようである。

三塁のリードを守り、鈴木が
好投する。二回表の一死二塁
七回表の一死二塁以外には
走者を許さず、このままでの
試合ですべてフルに勝ち、来
たという強打の佐川急便も、
わずか一安打に抑えてみごと
完封勝ちした。これまでには
安定した投球内容であった。

(内山)

遊びに手を抜かない熱狂草野球軍団、バミューダズ

内山秀敏

バミューダズは不思議な魅力を持っている。たかが草野球なのに皆、試合中は目の色を変えてハッスル・プレーをする。相手に点を取られても、次はオレが取り返すと勇み立つ。スリリングなサヨナラ勝ちも多い。

30代の「ベテラン」が新ポジションに挑戦する。50まで野球を続けて親子対抗戦をやるのだと意気盛んだ。

宴会になるとさらに迫力が増す。タレント、スターはキラ星のごとく、レコード発禁歌から講談まで飛び出すので、渾身の力を込めて演技をしないとカスんでしまう。

バミューダズの行くところ、つねに熱気と狂気がウズを巻きそのとどまるところを知らない。

バミューダズのこの驚くべきパワーはいったいどこから湧いて来るのか？ その源は徹底した本物志向 — 裏返せば徹底した「遊び」の精神である。何よりもまず、集まった人材がすばらしかった。前チームの失敗に学んで、野球が大好きなことを第一条件として人選が行なわれた。そして集まった選手は皆、チームを盛り上げることにかけては独特のヒラメキを持った、卓抜したアイデアマン達であった。

野球への情熱は技術の向上に、そしてあふれる創意工夫は、野球をいかに「本格的」に楽しむか、という「球団経営」にふりむけられた。

まず試合数が毎年20試合前後とかなり多い。そして試合ごとにスポーツ新聞「バミューダ・タイムス」が出る。勝試合のヒーローが大きな見出しとなって社内に回覧され、遠く海外の事業所まで送られる。その上、記者は持ち回り担当制だから誰もが「スポーツ・ライター」になれる。記事を書くことになった選手が、その試合を特にがんばったりする。

そして3月から始まる長い長いシーズンが12月に終ると楽しい楽しい大納会である。MVPが発表され、立派なトロフィーが授与される。さっそく「バミューダ・タイムス」記者のインタビューが始まる。新人王や首位打者なども表彰される。雷電賞、衣笠賞などの特別賞が出る年もある。もっとも、いいことばかりではない。MVP受賞後2年で、タブチ賞をもらってしまった選手もいる。

チームは業務部と特許部の連合軍でスタートした。しかし、野球と宴会が大好きでガッツのある人なら大歓迎、みるみるうちに全ソニーから人材を集めた。その意気に感じた女性選手も入団、サンケイスポーツの記事にもなった。

スカウト陣の活躍による引き抜きも盛んで対戦相手の有力選手がバミューダズの熱気と試合数の多さに魅せられて続々と入団した。スカウトの手は外人にまで延び、現在は第五代目が活

躍中。歴代の外人はみな本場仕込みの華麗な守備をみせている。年に一度は「バミューダ・タイムズ」も英語で発行される。

さらに佐久の遠征合宿（夏）、ビールを飲みながらの技術論パーティー、ファン感謝テニス旅行と混合ダブルスの大トーナメント、選手の老後まで考えた「名球会」創設、と優れた企画が次々と実行され、尽きることがない。

いま、バミューダズでプレーをするとき、年

とともに失なわれがちな闘争心がなぜか、かきたてられる。チームへの愛着と連帯感の為せるワザである。

チーム結成以来7年間で100試合達成（その間58勝28敗14引分）という偉大な記録をマイルストーンにして、バミューダズはすでに200試合にむけてスタートを切った。80本安打や30勝をあげて暗れの名球会入り、そして親子対抗試合 — 遊びに手を抜かない熱狂草野球軍団の夢は、果しなく広がってゆく。

名球会規約

（目的） バミューダズの伝統を守り、更に発展させてゆくために「バミューダズ名球会」を創設する。

（資格） この光栄ある名球会員たる資格は下記の条件のいずれかに該当する者とする。

（会員の義務） 心酔しているバミューダズ魂に基き、自ら率先して後輩の人材発掘並びに指導・育成にあたり、もってバ軍の強化に粉骨の努力を注ぐこと。また球団の公正にして円滑なる運営を常に心懸けること。特に財政面（会費等）はバ軍ナイン以上の負担をするものとする。

（会員の権利）

1. 「バミューダズ・タイムズ」の永久無料購読
2. 毎年度末のドラフト会議で決定される年度表彰につき優先発言権を有し、選考

に当っては名球会員の発言は最大限尊重されるものとする。

3. バミューダズの試合をはじめとする各種行事に優先的に参加することができる。
4. その他、名球会の活動については会員の協議により決めるものとする。

（会員になるための条件）

1. 投手
勝利数が通算30勝以上であること
2. 野手（下記条件のいずれか一項目）
 - ①通算80安打以上
 - ② # 20本塁打以上
 - ③ # 60打点以上
 - ④ # 60盗塁以上
 - ⑤ # 100三振以上
 - ⑥50試合以上に出場し打率3割以上
 - ⑦100試合以上出場

球団史

1976年（昭和51年）

バミューダズは1976年の夏に、当時の業務部のメンバーを中心として結成された。チームはその当時から、野球と宴会が大好きな熱狂草野球軍団であった。その誕生の秘密は何か？ それにあって「バミューダズ」なのか？

話は遠く1973年に遡る。ある日業務部・特許部の連合チームが何かの手ちがいで、強豪羽田工場に試合を申し込んだ。結果は2-35。以後「野球」の二文字は禁句となった。

ところが74年に左の本格派投手、建部が入社した。ひょっとしたらあの羽田工場に勝てるのでは？ という大それた望みを持つ者が何人も出て来て、めでたく（草）野球は復活した。

74年11/16 業務13-9特許

75年 5/31 業務5-0技研

6/21 本社混成7-2カセッターズ

ユニフォームなどもちろんない思い思いのコスチューム。塩瀬の黄色のバミューダが目にした。それでも試合には勝った。

チームが順調に育ちはじめた矢先、不祥事が起きた。試合を企画した者までがグラウンドの場所を知らず、試合が流れたのだ。駅前で麻雀をしてチームは解散した。

しかし、一度勝利の味を覚えた者にとっては、野球への未練は断ちがたかった。前回の事件を教訓に、技術の優劣よりは野球への情熱とチームへの愛情を採用基準として、新球団の編成が行われた。

こうして1976年夏、新チームが誕生した。ゼロックスとの第一戦にみごとな勝利を飾り、バミューダズの輝かしい歴史がスタートした。

栄光の第一戦参加メンバーは次のとおり

(三) 斉藤 眞 (外国部)

(二) 塩瀬 正明 (社長室)

(遊) 神原 貞昭 (特許部)

(捕) 安藤 憲明 (業務部)

(投) 建部 英敏 (業務部)

(一) 松本 哲郎 (社長室)

(左) 加藤 干武 (特許部)

(中) 浅井田 貴 (特許部)

(右) 内山 秀敏 (業務部)

右 内藤 由治 (業務部)

ユニフォームなどはまだなくラグビーやサッカー、それにバミューダ・パンツなどが入り乱れた仮装行列大会ではあったが、ユニフォームの揃ったチームに堂々と勝った(3-1)。その後すぐユニフォームを作ったが、「ボロを着ても心は錦」、第一戦のことを忘れないようにチーム名を「バミューダズ」とした。

また、第一戦の後で短い戦評と記録を載せた新聞が発行された。各部に回覧され好評を博したので、本社ニュースにも転載された。新聞は毎試合出されることになったが、試合数が少ないので「月刊スポーツ」の名前でスタートした。

この年3試合を行ない2勝1引分。納会が華かに開かれた。

最高殊勲選手 松本哲郎(8打数4安打)

to

•

千葉流山ゼロクス球場

と云うので夜中から外へと
くると、毎回のペースを壊
るゝに決定打です。と云
うが三日は、足踏みの香
藤氏が目撃事に「ライ
トオーバー」のホームラン
貴重有力佐剣兵とな
た。

ベース・コートに落ち
 ー 東山 二回前
 の練習では守備の
 人だ。たぬみとに
 名前、はい。シメと
 三回まで進み、カサ
 二回
 氏の子で、すゝ実入。
 もう、さう、土煙の
 甲、惜しくもアウトと
 した。

續くハ、ターは二馬二ツ
だが、ライトに抜け、
イアウト、三馬三ツ
ピーチとなつたが、建
部氏の後、越三人を
打ち取つた。

1977年（昭和52年）

明けて77年、バミューダズは本格的なチームづくりにとりかかった。バ軍発展の基となった有力選手が多数入団、また、難ポジションの捕手に塩瀬が挑戦した。

金子治選手入団（3月5日）

春を待ちかねたバ軍は雪のチラつく中で開幕戦を迎えた。後年ここ一番に強いバッティングで松下ゴロシの異名をとった金子が投手で入団、富士電機を相手に先発した。（5-3）

小林剛選手入団（4月23日）

同郷の松本選手と広島マフィアの手でG & Aから移籍。長打と陽気な性格で名物男となる。（G & Aとは海事本部にあるGiants & Anti-Giantsという時代錯誤のチームのこと）

熱血パンダ、タブチから捕手の座を奪う

第一整備戦は捕手の乱守で初の敗戦—しかもボロ負け。ここで熱血草野球の塩瀬が捕手に立候補、次の試合から本当にマスクをかぶった。

しばらくは、捕球のたびに「ボン」と音がしてミットからボールが飛び出し、応援の女の子から「あれがおもしろい」などと言われた。

そこで考え出したのが、星飛雄馬も思いつかない恐怖の猛練習。バッティングセンターに現れた彼は、バットには目もくれずキャッチャーミットをとり出し、ピッチングマシンの正面に座り込んだのだ。

大リーグ養成マシンのおかげでキャッチングはめきめき上達、チームを引張る闘将に育っていった。試合中の闘志はすさまじく怠慢プレーのサードにお面を投げつけた、「空飛ぶキャッチャーマスク」は今でも語りぐさになっている。

内藤由治選手、海外赴任

チーム創設メンバーの内藤が海外赴任第一号としてフランスに旅立った。

油田久仁雄選手入団（10月22日）

玄人好みのプレーを見せる油田にふさわしくデビューは振り逃げ三塁打。富士電機戦1-6から大反撃のきっかけとなった。（4-6で時間切れ惜敗）。この油田もG & Aの選手。試合を見に来いと言われたが、実は彼を入れて9人しか来なかった。今も昔も選手集めは大変だ。

成蹊大学野球同好会と対戦（11月19日）

試合になるのか危ぶむ者もあったが、金子の好投で大接戦の末、惜敗した（3-4）

最終戦に初ヒットでホームラン（12月3日）

一年間ノーヒットだった塩瀬が対ミックス戦で特大ホームラン、敵味方を驚かせた。10-3で大勝

やや苦戦のうちにシーズン終了

8戦して4勝4敗、一時負け越した。

最高殊勲選手 神原貞昭

（12打数4安打 .333）

新人王 小林 剛

（19打数6安打 .316）

ホームラン王 安藤憲明（2本）

優秀投手賞 金子 治

盗 塁 王 塩瀬正明（6個）

なお、チームの文字どおりの女房役、マネージャー兼スコアラーとして大活躍をした人気者、土屋京子さんに感謝状が送られた。

油用生還乞早乞一兵更

1978年（昭和53年）

この年より試合数が大幅に増えて、バミューダズは草野球の王者への道を歩み出した。松下電器貿易との定期戦開始。女性選手の入団や、外人の登場、骨折者も出るなど話題も豊富。

3月4日、大風のち大雨の開幕戦 4-3で全外国部に勝つ。土屋マネージャー婚約発表で何人かの男、涙を飲む。前年の新人王小林はこの試合3打席3三振

野村尚文選手入団（4月24日）

野球の他にアイスホッケーも得意な異色選手。新入社員ながら攻守にわたり大活躍。しかし彼を有名にしたのは「マンモスのおにぎり」だ。

伝統の松下戦はじまる（5月20日）

1-1で迎えた最終回、この日まで9打席8三振の金子が決勝二塁打を放った。建部の力投、野村の同点打もあり、強敵に2-1で逆転勝ち。

飯田克美選手入団（5月20日）

「サウジの飯田」は一年の半分が海外出張の猛烈営業マン。帰国中は必ず試合に出て模範的プレーでチームをリード。得意は外野と捕手。

ついに女性選手誕生（5月27日）

佐々木よう子さん。高校時代ソフトボールの選手だった。クリッパーズ戦でデビュー。

「ファーストを守ったとたん、痛烈なゴロが襲った。誰もが抜けけると思った瞬間、彼女のグラブが打球をたたきつけた。ボールを拾い直してベースカバーの松本にトス、アウトである。敵だけでなく味方も啞然、続いて拍手喝采。ファインプレーである」（月刊スポーツ第18号）

「押し出しの樋口」デビュー（6月18日）

恐怖の死球稼ぎ、樋口謙三選手入団。代打で登場し必ず当って出塁する秘密兵器（2-3でマシンネックスにサヨナラ負け）

機関紙「月刊スポーツ」は試合も増えたので「バミューダ・タイムズ」と改名。

初の外人選手登場（7月22日）

ディーン・ダンレビー君（ハーバード大学）。夏休みを利用して来日、ソニーでアルバイトをしていた。対ウィングズ戦に出場、3打席2三振であったが外野守備で鉄砲肩を見せてくれた。

二人目の女性選手と契約

小美野久代選手入団。ソフトボール出身。これまでもたびたび応援に来てくれた、マスコット・ガール。マネージャーとしても活躍。

ついに骨折者出る。（初の夏期練習会）

鵜の木ホームグラウンドで、猛暑に耐えてがんばった。しかし終了まぎわのスライディング練習で、金属音とともに塩瀬選手の足は複雑骨折、二ヶ月の入院生活となった。

長い長いシーズンが終了

今年の倍の15試合。7勝4敗4引分。

最高殊勲選手 安藤憲明

（30打数10安打 .333）

新人王 野村尚文

（16打数6安打 .375）

技能賞 加藤千武

タブチ賞 松本哲郎（二年前はMVP）

金子快打!

SONY パミュダズ、松下に辛勝

月刊スポーツ No. 17
1978.5.22

〔横浜産、五月二十日〕

草野球フアンの皆様、ごめん
いか。職場のつらさを越えて、広
く個性的な選手を集めて、広
くユニークな選手を集めて、
パミュダズは、新入団選手も多数あ
り、元氣一杯、ビーンは十杯、今回
ついに松下を下し、敵対、苦戦
を強いられながらも、大に援回
の働きもあり、終盤、鮮やかな
逆転勝ちを収めました。

軟式野球試合(昭和53年5月20日)

於日動火災大倉山グラウンド

パミュダズ (観衆多数)

〇〇〇〇〇〇一
〇〇〇〇〇〇〇
〇一
一

松下電器貿易(株)東京支社

(属)建部(負)松下

大に援回

絶々集合す

相手は、阪急・山崎南の投手
が、かつて在籍した松下野球
部、とは全然関係ない。た
が、パミュダズの強豪と、更に
また多数の応援団が来ると
の噂が、聞かされた。たが、
我が軍としても、応援だけは
けいようにと、かつてはいかに
宣伝は、その甲斐あって、十人
を越える応援団が、めいめい
た相手を、まず、倒すことに
成功した。

双方無念

二回、攻防

しかしながら、試合の方は、そう
順調には行かず、一回は双方

走者を出したが、得点も、間
題の二回、攻防に入った。

左投手パミュダズは、先頭打者の
塩瀬が、つり首のよう、球を腹
に受けて、土俵の外に送り出し、
では、行くセンター前に、ボクシング
気味を良くして、さう、二盗に成
功したが、本塁に、気をつけろの
指示も、空しく、めいめい、タマツ
例によって、味方ベンチからの、罵声
を浴びながら、帰って来て、塩瀬
の、あきり、パミュダズの、よう、に、むくり
返した。パミュダズ、無言で、

さて、二回、二盗の松下の、攻撃
は、先頭、那須の、因球、打者の、
松下の、サード、三塁、を、安藤が、得
意の、送球、一塁、走者は、一気
に、三塁、へ、達した。三盗、三盗の、時
松下、二盗、殺ぐ、藤川は、センター
に、大飛球を、打ち上げ、三盗、走
者は、タマツ、三盗、から、ホーム、イン、
松下は、得意の、先頭、打者と、今

1979年（昭和54年）

待望の夏合宿が実現した。同じ屋根の下で生活を共にし、練習をする。バミューダズはまたひとつ連帯の絆を強めた。この年も有望選手が続々と入団、またついに外人選手が正式に入団し、バ軍も自由化時代の幕を開いた。

榎並隆選手が正式入団

総務部のジョーカーズから移籍。投手・捕手を同等にこなす超大型新人。打撃もよく、バ軍では打てる捕手として活躍、たちまちチームの主力選手に。この日、開幕戦に大勝（10-1）。

居山由彦選手入団（3月17日）

抜群の出塁率を誇る、一・二番型。この年、盗塁王を獲得。しかし、彼の本当の値打ちがわかったのは宴会の時だった。

植山周一郎選手入団（4月14日）

長い間、英国に駐在。帰国直後にバ軍入りした。チームを盛り上げながら自らも楽しむタイプ。この年新人王に。

建部の決勝ホームーで松下戦に連勝

4-0のリードが終盤に崩れ、建部が相手投手に同点3ランを打たれた。しかし、さすがは建部、その直後に決勝ホームランを打ち返した。（6-5 5月21日）

佐久遠征・夏合宿が実現（8月17・18日）

建部選手思い出の地、佐久で夏合宿。野球狂バミューダズも、ここまでのめり込んだらもう引き返すことはできない。地元の強豪ルオー・ファミリーの胸を借りたが4-6で惜敗。

外人選手、ついに正式入団（U. S. A.）

Paul Fraker選手。攻走守三拍子揃った好選手だ。本職はCDIの英語教師。

油田久仁雄選手、オーストラリアへ赴任

この年シドニーに行くまでの15試合にフル出場して「衣笠賞」を受賞した彼は、この後も日本出張の際には試合に出場、ヒットをみやげにオーストラリアへ帰っていく。

宿敵SMP-DUAD登場

とても負けるような相手には見えないのになぜか二連敗。最後に榎並投手で実力勝ちしたがこの年は負け越した。

塩瀬、投手として再出発

12月2日の最終戦、榎並のチーム、アセンブラーズとの試合に塩瀬「投手」がデビューした。骨折を機会に新ポジションに挑戦。

ついに年間二桁勝利

17戦10勝6敗1引分でシーズン終了。

最高殊勲選手 建部英敏

（44打数16安打 .364

16打点14得点）

新人王 植山周一郎

（19打数5安打 .263）

盗塁王 居山由彦（18）

衣笠賞 油田久仁雄

（15試合連続出場）

ホームラン王 塩瀬正明（3本）

三ッ龍賞 樋口謙三（決死の当り屋）

佐久遠征

地元強豪チーム相手に善戦

一九七九、八、一九
佐久市営球場
10:00
5
12:00
晴

10:00
5
12:00
晴

スミリー・ルオ

2
0
1
0
1
0
2
—
6
觀衆
10
人

$$\begin{array}{r} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 2 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \\ \hline 4 \end{array}$$

バ
ッ
ダ
ズ

79年8勝4敗

連征の様様は樋口君が打とうが三浦を榎並山嶺と
バクマックスに録画した。バクマックスで殺し、ピンチを

脱した。

試合經過

7. ミリール先攻

小林 同点、2塁打

草野球の皆さんに
ちは。わがバシユーズは千
ム創設からこの夏で満三年
を迎えました。初めの遠
征です。

8月17日(金)仕事終了後、4
台の車に分乗し佐久に出かけ
ました。8月18日(土)は練習、
翌19日に地元強豪チームと
対戦しました。結果は負けまし
たが善戦惜敗といえます。

球。92 m のをスミズミがリランニング
ホーム。2点先取された。ノーアウト
である。どうなるかと思つたが、建部は
後続3人を内野フライでピシヤリと
抑えた。

B軍1点返す。その裏、野村は
左中軸の3塁打。ピッチャーは衆怒を
1点をもちこたつた。

打順こそ考慮だつたが、3回
にも2塁打を打てる。そして4
回にタイムリー。スエアラにし
て新赛季を同行し、彼も然え
たのである。

トスガ先攻を取つたが、リリーは
建部へ立ち上がりて捉えた。先
頭バッター重田が四球で出たあと
すかさず盗塁。前日二塁ランナー率
制の練習成果を見せつけサインブレイ
をしたがうまくゆかずランナー三進。
こゝろ番掛川はレフトオーバの大飛
びき返り、同点タイムリリー

この試合は小林の活躍
で試合を面白くさせ盛り上
げた。４回表建部の内野安打、
セカンドエラー、死球などで二死満
塁。ここで小林がセンター前へ
はじき返し、建部、塩瀬がオ

下單追加

フミリーは3回表、先頭打

者 掛川か、一回と同様にし

フットに、済し打ちを素晴しい。

2週打。続く黒沢弟も7

トに 2 回打、3 点目が入った。

しかし思沢弟を三井商で刺し

丁、三三が三益を樓並山嶺頼で

バックルで殺し、ピンチを

脱した。

小林 同窓 2 型打

武合、小木の古蹟

で試合を面白くさせ盛り上げ

げた。4回表、建部の内野安判。

セカンドエラー、死球など二死・満塁

ニニて小枝かセタ一前

はしき 連音 塩 津 力

三。B 卑ベンチは勝つ馬

$$f = 0$$

打順こそ一番だった
たが、3回

にも2塁打を打っている。そして4

⑤にタイムリ！。万が一、

たのであり。

1980年 (昭和55年)

この年より試合数がさらに増え、またサンスポ野球大会に出場。投手として再起した塩瀬が驚異的な11勝を挙げ、三振王の金子が打撃開眼4割を打つなど、バ軍は黄金時代を迎えた。

サンスポ野球大会に出場(4月、5月)

一回戦 ○ 3-1 バットマン

二回戦 △ 2-2 (抽選勝) オールエース

三回戦 × 0-4 ロッキーズ

二回戦ではサヨナラ敗けのピンチを堅い守りで同点にとどめ、建部が根性で勝ちれを引いた。バミューダ史上の名場面のひとつ。だが、この試合でエース建部が負傷、三回戦では大橋の力投空しく敗退、ベスト16は成らなかった。

対松下戦3連勝(8月17日)

伝統の一戦は、今年もソニーの勝ち。初回のピンチをダブルプレーで切り抜け4点を先行、追いつがる松下電器貿易を4-2で振り切った。

Paul Fraker 選手はこの試合を最後に帰国。松下軍も同席で盛大な送別会だった。

第2回夏合宿・佐久遠征(9月13・14日)

昼は連携プレーなどを猛練習、夜は昼よりも元気に大宴会。家族も多数参加、チームの連帯感を深めた。ルオー・ファミリーに再度挑戦。黒沢監督の4投手リレー策に0-4で敗れた。

強敵インパルス登場

7月19日、コンピューター部のインパルスと対戦、超ベテラン速藤投手の軟投に惑わされ1-2で惜敗。10月18日、新人大橋の攻守にわたる活躍と塩瀬の好投で3-1で雪辱した。

宿敵SMP-DUADを3タテ

去年のまぐれ勝ちでバ軍に自信を持っていたSMPだが、主力選手に衰えが目立ちバ軍のカモとなった。対戦成績は4勝2敗に。

塩瀬、突如エースとして躍り出る

自ら四死球でピンチを招き、強運と重いボールで活路を開く。試合開始から4人連続四死球を出しても負けなかったのはあまりにも有名。

有力選手、続々入団

藤本和彦選手：守備は万能、打撃はシュア。試合中のリーダーシップはすばらしい。

大橋洋行選手：捕手、投手、内野、外野と何でもこなす万能型。打撃も良くパワーがある。

徳光始選手：寡黙な九州男子。売り物は広い外野の守備範囲と鉄砲肩。

古川遣人選手：攻走守とも若手を上回る長老選手。入団が遅れたのが惜しまれる。

田中啓介選手：剣道の選手だった異色の新人。

Merty Rathes 選手：二代目外人。打撃は弱い守備には強い。サードでのフィールディングはPaulをしのぐ。

記録ラッシュでシーズン終了

24戦17勝4敗3引分。7連勝一回。バ軍は名実とも草野球のメジャーとなった。

最高殊勲選手 榎並 隆

(攻守の要。56打数16安打 .286
19打点25得点15盗塁)

新人王 大橋洋行

(38打数10安打 .263)

電 雷 賞 塩瀬正明(11勝1敗)

首位打者賞 金子 治

(40打数16安打 .400)

——薄暮に消えた大記録——

	1	2	3	4	5	計
バッシュ・ダズ	4	3	0	2	4	13
ニチコン	0	0	0	0	0	0

本界打 塩瀬(森田)

三チームで試合??

コンテムの戦力は冷静に分析出来たことが、この日の勝利に直結。片や、若さと女性を援量と誇るニチコンテムも、合計十回戦も、それも十分周程のインタバルで戦ったことは、大きなデトになり、最後まで疲に乘れず、奥様方ふ嬌様方の太舌様も空しく、平素の力より出せず、結果となつた。然レこの要条件にもかかわらず、最後まで、戦つて

意と感謝を表します。

初智の明暗！

試合は、初回B軍両単に死をとられたが、流石をアテン建部、N軍ビッポ、谷口の琢をゴロでセリターに度する安村、ビッポ、谷口の気力をくぐくに充分足る一打であった。かゝるかゝるせめきどり軍、建部が、ふす二盗、ワイルドピッチ要

		打数	得点	安打	打点	犠打	四球	盗塁	三振	残塁
ニ チ コ ン	(2)高梨	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	(1)栗原	2	0	1	0	0	0	0	0	0
	(3)田中(研)	2	0	0	0	0	0	0	1	1
	(1)田中(芳)	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3)森田	2	0	0	0	0	0	0	0	1
	(4)戸田	2	0	0	0	0	0	0	1	0
	(3)下島	2	0	0	0	0	0	0	1	0
	(2)宮腰	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	(1)谷口	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	4回	(2)瀬島	1	0	0	0	0	0	0	1
パ ミ ニ ー タ ー ス	(1)尾山	1	2	0	0	0	3	2	0	1
	(1)古川	4	1	1	0	0	0	0	0	0
	(1)建部	3	3	1	0	0	1	2	1	0
	(2)榎並	1	3	1	0	0	3	1	0	1
	(1)塩瀬	3	2	1	4	0	1	1	0	1
	(1)松本	2	1	1	0	0	2	3	0	1
	(1)小林	2	0	0	2	0	2	0	0	0
	(1)内山	3	0	0	1	0	1	0	1	2
	(1)Martie	3	1	1	0	0	0	2	0	1

合計	ニチコン	17	0	1	0	0	0	0	4	2
	バッテリーズ	22	13	6	7	0	11	11	2	7

天氣 曇

グラボコンテジション やや重

1981年（昭和56年）

二年目のジンクスか欧州巡業の影響か、塩瀬の調子が良くない。これにつられてかチームの調子も悪く、5月23日には1勝3敗。これを救ったのはエースに返り咲いた建部だった。

田中の起死回生3ランで開幕三連敗を免れる

塩瀬の長期出張などで人が集まらず開幕二連敗、しかも3試合目は強敵インパルス。塩瀬がKOされ2回で0-5。ここでバミューダ魂が目ざました。藤本、大橋、建部、小林と連打して2-5とし、田中のレフト右を抜くホームランで一挙に同点。大橋の決勝打で6-5。

Marty 帰国、はなむけの大記録

塩瀬がノーヒット・ノーランを達成（ソニートレーディング戦 7月11日）。この試合を最後に帰国するMarty が「バミューダ・タイムズ」を英語で書いた。

宿願成る。ルオー・ファミリーに初勝利

3年目の佐久合宿。建部の毎回奪三振の好投にあって打線も活発。大橋が試合開始第一球をホームラン、原、内山の低位打線の意外な連打などで終始先手を取り、5-3で快勝した。

藤本、一回表二打席連続ホーム

いつも荒れる海外事業本部G&Aとの試合は、この日も大乱戦。一回表一番の藤本がいきなりレフトオーバーのホームラン。打者一巡して今度は満塁でもう一発。それでも最後は15-8。

松下電器貿易と引き分け、4連勝ならず

一回の攻防で5-2、伝統の一戦も楽勝ムード。ところがエラー続出、最終回表には5-7。松下に強い金子の一打で辛くも引き分け。

松下の東京支社には通算2連勝

7回表まで0-4。その裏に大橋、鈴木、藤本の三連打、建部のタイムリーで3点、8回には複並の2ランが出て6-5と逆転勝ち。

新入団選手

鈴木満夫選手：しぶといバッティングが目をはくが、古巣SP課との試合にはSP課のエースとして登板（捕手藤本）、投手としての実力を見せた。

鬼頭英二選手：攻走守三拍子揃った好選手。国内営業本部戦でデビュー、初打席で初ホームラン、しかもこれが決勝点となった。

John Youngblood選手：元、バスケットの選手、2メートルの大男。残念なことに大学に戻るため新春早々に帰国した。

バミューダズ、輝く通算50勝（12月6日）

大橋のレフトライナーをまちがえて素手で捕ろうとした中央商会の山崎選手が、右手小指の骨を砕くというオマケがついた（13-0）。

苦闘の連続でシーズン終了

後半よく持ち直し、19戦10勝7敗2引分。

最高殊勲選手 建部英敏（2回目）

（投手成績 8勝1敗）

（打撃成績 36打数19安打 .528）

敢闘賞 藤本和彦

（17得点11打点16盗塁の三冠王

48打数14安打 .292）

新人王 鈴木満夫

（24打数10安打 .417）

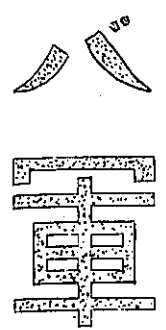
マネージャー賞 藤沢直子

ハミューダ

タイムス

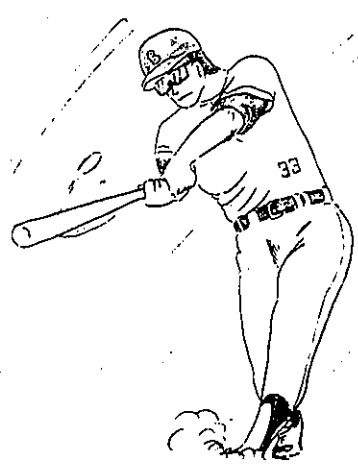
8月19号
通算85号

50 月勝



大橋 2号 2ラン

建部 3安打 完封で飾る 00



試合を決定づけた2号2ランを打た、大橋選手

12月6日
麻布学園グラウンド

ハミューダス	1	3	2	3	4	13
中央商會	0	0	0	0	0	0

勝建部 (8勝2敗) 敗柴田
②大橋 2号 2ラン

ハ軍 毎回安打毎回得点

ハ軍は81年最終戦で打っては毎回安打の13点、投げては建部投手が中央商會の強打線をもつ安打完封におよぶ好投を見せてハ軍創立以来通算50勝を飾った。

今回の相手、中央商會の投手、柴田選手は14キロの重球を投げると言う情報が出た。試合前から流れがハ軍に有利な状況で、速球対策を

おこなう。この柴田投手を打つ込んで完勝した。

初回表一死から二番佐光が四球を選び二死後建部が死球で出た二死一三塁から五番堀瀬がセンター前に打ちかえして、佐光を返して大量得点の口火を切った。

その裏中央商會は、トップバッターの福田がレフト前にヒットで無死一塁としたが、建部投手に二三、四番が打ちとられ、絶好の同点機を逃した。

二回ハ軍は、二四球と三エラーという相手チームの乱守に乗じて、得点を重ね、最後が建部の三塁打

1982年（昭和57年）

バミューダズにとって82年はすばらしい年だった。念願の100試合達成、初出場の品川Bリーグではベスト8に進出した（準々決勝は翌年に持ち越し）。打たれ強い強運男、鈴木が新エースの座についた。

塩瀬監督誕生、ミニ（テニス）キャンプ

府中青年の家で有志6人がヒザを交えて語り合い、一年契約で塩瀬監督が誕生した。

松下電器貿易に引分けをはさみ4連勝

1-1で迎えた5回表、塩瀬の二塁打、飯田のタイムリーで勝ち越し。塩瀬-建部の超豪華リレーで2-1で逃げきった（5月29日）。

ファン感謝テニス旅行（7月10・11日）

軽井沢に32人を集め（もちろんその半数は若く美しい女性）、混合ダブルス大会。建部・成田組が優勝。宴会で居山の新作講談「平家物語」が初上演され、女性ファンを感激させた。

最終回3-9から奇跡の大逆転（7月11日）

同じ日の朝、軽井沢を後に塩瀬と藤本は東京へ。小林・安藤らと合流、品川リーグ戦である。

試合は4回を終って3-9。時間制限で次の回で打ち切ると審判の冷たい宣告。しかし奇跡は起った。塩瀬の100メートルを越す超特大3ランが出て相手投手は戦意喪失。この回なんと9点を挙げ12-9の大逆転勝利。

8月21日、ついに通算100試合に到達

7年前のこの日に創立第一戦。思えば速くへ来たものだ。懐しの年功序列打線で通産省野球部を逆転したが、勝利を目前に、内山・樋口の連続エラーで苦いサヨナラ負け（3-4）。

佐川急便に圧勝、品川Bリーグでベスト8に

この日は超豪華オールスター・キャスト。監督がはじめて選手交代で悩んだ。初回の速攻で3点を挙げ、エース鈴木が好投、守り切った。（3-0 11月3日）

大型新人渋谷入団、だが有力選手が海外赴任

野球センス抜群、しかも宴会好きでつき合いがよいバミューダ好みの大型新人渋谷和明選手が入団した。また川久保伸選手、横野滋選手、日野徹選手も入団した。ジョンの後任でトム・ディケンズという偉そうな名前の外人も来日。

だが一方で草野球魂の海外伝道のため続々と有力選手が旅立っていった。飯田克美（ミラノ）小林剛（シンガポール）、野村尚文（ニューヨーク）、鬼頭英二（カイロ）……皆、話題を呼んだ名選手ばかりだ。彼らの任地での健闘とグラウンドでの再会を祈ろう。なぜなら我がバミューダズは不滅だからだ。

有力候補が多く白熱したMVP選考会

82年のMVP争いは最終戦でも決らずに、選考委員会に持ち込まれた。

最高殊勲選手 塩瀬正明

（16打点4本塁打で2タイトル。54打数

19安打 .351 品川リーグで大殊勲）

首位打者賞 大橋洋行

（42打数21安打 .500

13打点3本塁打）

最優秀投手賞 鈴木満夫（6勝0敗）

ホームラン王 徳光 始（4本）

新人王 渋谷和明

（34打数12安打 .353 9打点）

(1)

1982年9月8日

バミューダズ 100試合

達成

バミューダタイムス
No. 99

無念！記念試合を飾れず

通産省、逆転サヨナラ勝ち

八月二十一日、異色の野球独逸団「バミューダズ」は、草野球史上に輝かしい足跡を残す通算一〇〇試合出場を果たした。中年になってもチャレンジを続ける限りないう情熱とエネルギに新聞の発行、合宿遠征試合、外人や女性選手の導入さらにファン感謝デーの開催などの積極果敢な球団経営が実を結んで発展を続けたバミューダズは、この八月二十一日に草野球界では値打ちものの七四目の誕生日を迎え、同時に一〇〇試合出場という快挙をなした。(通算成績は5勝24敗14引分)記念すべきこの日の試合は落したものの、気負ったバミューダズラインは、名球会入りなどの個人的野心と、親子対抗戦を志す遠大な計画と胸に、すでに次の二〇〇試合への一歩を踏み出した。

(八月二十一日 鶴木 麻希学園球場)
バミューダズ

通産省
(勝投手)谷川 (敗投手)塩瀬

〇〇〇	1	〇	2	〇	3
〇	1	1	〇	〇	〇
4			2	4	

(戦評)

〈懐しの年功序列打線〉

「思えば遠くへ来たものだ」
マウンド上の塩瀬投手は感懐に

〔栄光の第百戦先発メンバー〕

川 本 田 橋 藤 瀬 部 林 山
古 藤 飯 大 宅 塩 建 小 内
(二)遊 (一)捕 (三)投 (中)左 (右)

胸ふるわせて空を仰いだ。17年前のサヨナラ戦も暑い暑い真夏の日だった。そして、このマウンドに上るのはオレが、ふさふさい、彼はあうたいて自分と言いつけるようにして第一打を投じた。そう、そうは記念すべき一〇〇試合目、そして先発メンバーはわか国伝説の年功序列主義に強く影響された豪華メンバーだ。それではまず、塩瀬監督苦心のオーダーをみてみよう。

対戦成績

月 日	投手	スコア	対戦チーム名	寸 評
(1976年)				
8/21	○(建部)	3-1	ゼ ロ ッ ク ス	エース建部の好投で第一戦勝利
10/30	○(建部)	4-3	ホテル・パシフィック	内山の勝敗を決めた2点打
12/4	△	1-1	富士電機半導体	富士のライトの好守でサヨナラならず
(1977年)				
3/5	○(建部)	5-3	富士電機半導体	金子・建部のリレーでネジふせた
4/23	●(建部)	0-11	第一整備	タブチ・安藤捕手、大守乱
6/4	○(建部)	11-7	土屋特許	小林、3ランを含む2安打5打点
7/23	●(松本)	7-13	バ リ オ	安藤、復活の2ホームー空し
8/27	○(建部)	5-3	大崎工場	松本、走者一掃の大三塁打
10/22	●(松本)	4-6	富士電機半導体	油田、振り逃げ三塁打でデビュー
11/19	●(金子)	3-4	成蹊大学同好会	金子の好投空しく惜敗
12/3	○(建部)	10-3	ミ ッ ク ス	出た、塩瀬2ラン
(1978年)				
3/4	○(金子)	4-3	全 外 国 部	主砲小林、3打数3三振
4/8	●(金子)	2-14	ミ ッ ク ス	面目丸ツブレ、悪夢の大敗
4/15	△	12-11	バ リ オ	これぞ草野球、最後は協議引分
4/22	○(建部)	3-2	半導体事業部	加藤、決勝二塁打で花吹雪
5/13	△	4-4	ジョーカーズ	捕手・塩瀬ウデを上げる
5/20	○(建部)	2-1	松下電器貿易	9打数8三振の金子が決勝二塁打
5/27	○(建部)	4-1	クリッパーズ	佐々木よう子衝撃のデビュー
6/10	●(金子)	2-3	マシネックス	中年チームにサヨナラ負け
7/8	○(建部)	10-2	オリベッティ	建部、投打(3ラン)に活躍
7/22	△	1-1	ウイングス	初代外人、ディーン登場
9/4	○(金子)	3-2	土屋特許	安藤のヒットで逆転サヨナラ
9/23	●(高木)	3-5	土屋特許	白熱のリターンマッチ
10/28	●(建部)	1-2	富士電機半導体	15三振では勝てない
11/18	△	3-3	成蹊大学同好会	建部、サヨナラを防ぐ入魂のピッチング
11/26	○(建部)	5-2	土屋特許	安藤、小林、建部の快打

(1979年)

3/3 ○(建部)	10-1	マシネックス	建部、満塁ホームラン
3/17 ○(建部)	5-4	ロビンズ	0-4 から逆転
4/7 ●(榎並)	1-2	S M P DUAD	榎並、正式入団・投手でデビュー
4/14 ○(建部)	8-5	クリッパーズ	旧人植山、2 安打でさっそうと登場
5/12 ○(建部)	6-5	松下電器貿易	建部、決勝のランニング・ホーム
5/12 ○(金子)	7-5	ウイングズ	初のナイター、金子好投
5/19 ●(金子)	3-9	S M P DUAD	松本、アダ花 2 ラン
6/9 ●(建部)	7-9	トライアンプ	炎天下の大乱戦
6/23 ○(建部)	6-5	富士電機半導体	暑中見舞、塩瀬 2 発ノ
7/7 ○(建部)	8-1	バリオ	小林、先制 2 ラン
7/21 ○(金子)	8-3	土屋特許	居山、3 打数 3 安打
8/19 ●(建部)	4-6	ルオー・ファミリー	第 1 回佐久合宿、ルオーは強かった
8/25 ○(榎並)	9-5	S M P DUAD	榎並完投、打っても 3 ランノ
9/22 △	6-6	ミックス	最終回裏、野村のホームランで同点
10/14 ●(金子)	3-4	ゼロックス	正式の初代外人 Paul がデビュー
11/3 ○(建部)	8-1	婦人画報社	Paul 三塁打 2 本と大当たり
12/2 ●(建部)	2-6	アセンブラーズ	敵投手榎並にバ軍打線沈黙

(1980年)

3/29 ○(塩瀬)	8-1	S M P DUAD	塩瀬、投手として第三の野球人生
4/5 ○(金子)	7-6	富士電機半導体	金子、投打に大活躍
4/12 △	11-11	共石プロミス	榎並、小林ともに 3 安打。なぜか引分
4/26 ○(塩瀬)	4-1	スピリッツ	塩瀬が投げた、また勝った
4/27 ○(建部)	3-1	バットマン	サンスポ大会 1 回戦突破
5/11 △	2-2	オールエース	根性の抽選勝で 3 回戦へ
5/25 ●(大橋)	0-4	下北ロッキーズ	大橋の力投空し、3 回戦で散る
6/14 ○(塩瀬)	9-4	アセンブラーズ	塩瀬・榎並、敵味方に別れアーチ合戦
7/5 ○(建部)	4-0	大崎 S P 課	Paul の英字新聞登場
7/19 ●(建部)	1-2	インパルス	最終回、「死球の樋口」もついに及ばず
8/10 ○(塩瀬)	5-0	S M P DUAD	塩瀬、初完封、天野玉碎
8/16 ○(金子)	13-5	海事本部	金子完投、10 安打の猛攻
8/17 ○(塩瀬)	4-2	松下電器貿易	好守、好打で松下戦 3 連勝
9/6 ○(塩瀬)	7-1	ダンディーズ	9 人目は神にも見えた。飯田さんありがとう
9/14 ●(塩瀬)	0-4	ルオー・ファミリー	第 2 回佐久合宿、ルオーの壁は厚い

(1980年(続))

9/23○(塩瀬)	9-3	松下(東京支社)	塩瀬完投。松下戦4連勝
10/10○(塩瀬)	8-2	酷使無操	榎並2ホームー、投けても好リリーフ
10/18○(塩瀬)	3-1	インパルス	走る古川、脱兎の如く
10/23○(金子)	5-1	J E T R O	ナイター男、金子。榎並は逆転ホームー
11/2○(鐘江)	3-1	岡村のんべーず	鐘江初登板、初勝利
11/15○(塩瀬)	6-2	S M P DUAD	塩瀬、草野球史に輝く10勝目
11/24○(塩瀬)	13-0	日本コンデンサ	あわやパーフェクト。薄暮に消えた大記録
11/30●(浅井田)	4-5	海事本部	浅井田、念願の初登板を飾れず
12/6△	3-3	栄電ヤッターズ	エース打たれ、拙攻たたる

(1981年)

3/28●(金子)	6-7	J E T R O	最終回、打者一巡の反撃空し
3/29●(大橋)	2-3	Saints	大橋乱調、無念の逆転
4/18○(建部)	6-5	インパルス	田中、起死回生の同点3ラン
5/23●(塩瀬)	3-6	S M P DUAD	塩瀬、1イニング3死球で自滅
5/24○(建部)	7-0	岡村のんべーず	安藤、榎並ともに3安打
5/30○(建部)	13-10	ジョー	乱守戦B軍11、J軍13のエラー
6/27○(建部)	9-8	国内営業本部	新人鬼頭、初打席で決勝ホームー
7/11○(塩瀬)	9-0	ソニー・トレーディング	塩瀬ノーヒットノーラン。小林2安打4打点
8/16●(塩瀬)	1-8	インパルス	タイムリーエラーでライバルに完敗
9/5●(塩瀬)	6-7	総合企画部	最終回の反撃空し、2ホームーに沈む
9/13○(建部)	5-3	ルオー・ファミリー	大橋、第一球目をホームラン。ルオーに初勝利
9/19△	5-5	大崎S P 課	ナイター時間切れ消灯で7回裏のリードがフイに
10/3○(塩瀬)	15-8	海事本部	藤本初回2打席連続ホームラン
10/4○(建部)	9-0	バスカルズ	建部快投、4安打で9点
10/17●(塩瀬)	7-11	国学院大学	徳光、満塁ホームー時遅し
10/24△	7-7	松下電器貿易	5-2が5-7に。やっと引分け
11/14●(建部)	2-3	ドナルドダック	絵に描いたようなサヨナラ負け
11/21○(建部)	6-4	松下(東京支社)	建部投打に活躍、0-4から逆転
12/6○(建部)	13-0	中央商會	レフトの指の骨を砕いた大橋の一撃

(1982年)

3/28△	4-4	S M P	DUAD	鈴木好投、塩瀬リリーフが裏目に
4/3 ○(塩瀬)	12-6	東 洋 水 産		二塁ベース上り固め、ヤキソバ万才
4/10○(鈴木)	10-3	ニ コ チ ン 販 売		鈴木完投、新人横野大活躍
4/28○(塩瀬)	5-0	中 央 研 究 所		塩瀬、強豪中研を完封
5/22△	5-5	イ ン バ ル ス		徳光、塩瀬で2発、熱闘引分
5/29○(塩瀬)	2-1	松 下 電 器 貿 易		飯田の決勝打で松下戦6勝1分
6/12○(鈴木)	6-3	ブ リ ジ ス ト ン		鈴木-建部のリレーで逃げ切る
6/19△	10-10	ウ イ ン ズ		飯田2発、史上最高5ホーマーでなぜか引分
7/3 ○(建部)	15-1	スカンディアクラブ		建部、5回で奪三振11。連続6三振
7/6 ●(塩瀬)	4-7	J E T R O		ファーストミットからの的を外して投げる内野陣
7/11○(鈴木)	12-9	東京バインダーズ		最終回3-9から奇跡の大逆転、(品川区2回戦)
7/24●(塩瀬)	4-9	トチギビデオテック		小山速征、塩瀬の立上り悪く2回で0-8
8/15○(建部)	12-0	メ ッ ツ		品川区Bリーグ、ベスト16に進出
8/21●(塩瀬)	3-4	通 産 省		最終回、内山、樋口連続エラーでサヨナラ負け
10/2 ●(建部)	1-4	国内営業本部		建部、奪三振13の力投もなぜか実らず
10/10○(塩瀬)	15-2	ア ス ト ロ ズ		10安打の猛攻で連敗脱出
10/17●(建部)	0-2	サ ン ゲ ッ		ノーヒットで完敗(品川秋リーグ)
10/23○(鈴木)	11-4	ル - マ - ズ		塩瀬豪快、センターオーバー大ホームラン
10/30●(塩瀬)	4-5	ソニー・テクトロニクス		逃げ込みに失敗、ついにサヨナラ負け
10/31○(鈴木)	6-5	岡 村 の ん べ - ズ		今度はサヨナラ勝ち、強運鈴木5連勝
11/3 ○(鈴木)	3-0	佐 川 急 便		大橋、建部初回に連打。品川Bベスト8に進出
12/11△	4-4	イ ン バ ル ス		MVPのかかった一戦だが、いいところなし

(108戦 62勝31敗15引分)

宿敵との対戦成績

対 松 下 電 器 貿 易	4勝0敗1引分
対 イ ン バ ル ス	2勝2敗2引分
対 S M P - D U A D	4勝3敗1引分
対 富 士 電 機 半 導 体	3勝2敗1引分
対 土 屋 特 許 事 務 所	4勝1敗0引分
対 海 事 本 部 (旧外国部)	3勝1敗0引分
対 ル オ - ・ フ ェ ミ リ -	1勝2敗0引分
対 岡 村 の ん べ - ズ	3勝0敗0引分
対 J E T R O	1勝2敗0引分

バミューダズ技術論

建部英敏

バミューダズは結成後2年目までは試合数も少なく、練習もしていなかったのに、試合の前日に全員屋上に集まり、キャッチボールとトスバッティングをやっていただけだったが、3年目からチームとしてまとまりが出てきた。春期練習を行ない自主トレでベッパ・バッティングや柔軟体操で基礎体力を強化した。

4年目より若手有望新人が加わり、強いチームにも勝てるようになってきたところで「草野球から本野球へ」のスローガンを掲げ、サインプレー、内・外野の連携プレー、内野の連携プレーなど、技術面（主に守備）及び精神面の質的向上を目ざした。

その結果、毎年夏の佐久合宿で恒例のルオー・ファミリーとの試合でランニング・ホームランになるはずのランナーを、ホーム直前でタッチアウトにできた。これは大きな成果として注目すべきだ。

それではポジション別にバミューダズの目指すべきレベルの検討をすすめてみよう。

I 守 備

(1) 投手：投手にはいつも冷静さが必要である。特に草野球の投手には必要だ。というのは、草野球にはエラーが付きものであり、そのたびにくさっていたのではお話にならない。あとは精神的強さが必要だ。精神的な弱さがピッチングに出ると、四球を出したり打たれたりする。

(2) 捕手：特にキャッチングのうまい人。タマを恐がらない人。皆から色々な面で信頼される人。リードは勉強すればすぐできる。

(3) 一塁手：おじさんやタブチのポジションではない。キャッチングがうまく（執念深いくらい）、声のでかい人がよい。

(4) 二塁手：内野の中心。プレー中のチーム全体の動きが見えていること。動きが敏捷で、しかも細かい心づかいができること。

(5) 三塁手：草野球のホットコーナー。一番ボールが飛んでくるポジション。燃える男でないと動まらない。声のでかく肩の強い人。

(6) ショート：セカンドとともに内野の要。強肩でサードをカバーし、セカンドと同等に細かいプレーのできること。

(7) 外野手：フライはとにかく捕る。捕れなければ後始末を早くすればよい。早く良い球で内野に戻すことができれば合格。フライの捕り方は数多くノックを受けることで体得できる。

II 打 撃

① バミューダズで一番欠けているのは、ランナーを進めるバッティングである。まず右へゴロを打つことを覚えるべきである。レフトに大きなフライを打ち上げても、タッチアップ以外はランナーは進まない。また、残塁記録が多いというのは三塁にランナーがいてもホームインさせることができない事にも通じる。従ってバントを全員が確実にできるようにし、スクイズも成功させることができるようにならなければ、本当に強いチームには勝てないだろう。

② サインを見落すことは野球人として失格である。サインの見方、そのタイミングを早

く身につける。とにかく一球一球サインを見る習慣をつけることである。

Ⅲ 個人鍛練法（自主トレ）

野球はとにかくにも“腹”でなく“腰”であるので足腰をしじゅう鍛えておかななくてはならない。いつも腹筋とか腕立て伏せを家でやっているのが一番よい。それが忙しくてできない人のために、日常できるものを紹介しよう。

通勤電車の中ではつま先立ちをくり返したり、座っている時は足を少し浮かして腹筋を鍛える。また会社では、エレベーター、エスカレーターは使わず、必ず階段を利用する。それも二段上りや三段上りをズボンのおしりが破れない範囲でまぜることだ。握力は握力器具がスポーツ店で370円で買えるのでそれを使う。

Ⅳ 今後の課題

1. 声の出るチームになること
2. ダブルプレーの取れるチームになること
3. 点の取れるチームになること
4. 中継プレーの確実性をさらに高めること
“カットまで良い球を早く”を徹底
5. サインの見逃しのないチームになること
バッターボックスに入っても、自分一人で野球をしているのではないことを忘れずに一球一球サインを見る習慣を身につける。

これからも本野球を目指し、

がんばっていこう！

歴代マネージャー紹介

バミューダズは女連の良いチームで、すばらしい女子マネージャーに恵まれて来た。彼女たちからお祝いの言葉が寄せられているのでご紹介しよう。

高橋京子さん（旧姓土屋：初代）

「100試合達成おめでとう。バミューダズは私の青春そのもの、そして選手の皆さんは私の恋人でした。だから時々ウワサが流れて来ると、とても気になるんです。

今では二児の母親ですが、100試合達成のニュースを聞いて、まるで我が子の成長をまぶしげに見守る母親の気持ちです。」

小美野久代さん（二代目）

「皆さん、お久しぶり。バミューダズの思い出？ そうね、試合に出たかったわ。せっかく選手として入団したのに。私の方が上手なのにと何度も思ったもの。塩瀬さん

の骨折も一緒に練習していたからよく覚えているよ。皆さん老体にムチ打ってこれからもがんばって下さいね。」

青柳恵子さん（現役）

「バミューダズのイメージ？ 野球好き集団。世界は自分達を中心に回っていると信じている男たちの幸せなチーム。」

藤沢直子さん（現役）

「学生でないのによく続いていますね。選手のキャラクターがすばらしいからかしら。バミューダズを生んだ業務部の選手が沈滞しているのが残念です。」

なお三代目の Yoko Bayer さん（旧姓竹内）は御主人が米国 S M P 勤務のため、現在アラバマ州ドーサンにお住いです。

選手紹介

(記録は82年末現在)

塩瀬正明選手(創設メンバー)

監督、投手、内野手、外野手

右投右打 175 cm 77 kg 1948年生れ

投手・37試合17勝9敗

打者・93試合248打数58安打 打率.234

82年度最高殊勲選手 80年度雷電賞

〈バミューダズへかける男のロマン〉

チーム全体へのロマンについては巻頭言で述べたので、ここでは一選手としての抱負を記すことにする。

私の夢は後樂園か甲子園で選歴野球をすることなのでB軍では60歳までは現役選手として活躍したい。守備については何とんでも投手が一番やりがいがあって面白い。すべてのポジションを経験しての結論だ。40歳、いや50歳まで投げ続けて50勝、(82年末現在17勝、以下同じ)防御率2.5(3.08)を目標としたい。従って攻守にわたってナインの援護をお願いしたい。タイプとしては四球の少ないコントロール投手として気迫を示したい。このため変化球をあと1つ覚えたい。また、長距離打者としてクリーン・アップを堅守することを自信を持って宣言しておこう。打率は最低3割を確保するとして、何とんでも本塁打、打点の面で私の持ち味を発揮したい。数字を示せば、40歳までに150安打(58)、100打点(56)、30本塁打(13)、通算打率2割8分(.234)という胸の内を明らかにしておこう。走塁の面だけでは衰えが心配なので自己鍛練を一層積み重ねるまい。投・打とも全ての分野で「名球会」入りの資格条件を達成したいものだ。そうなる、と、何回MVPを獲るか楽しみだ。(塩瀬正明)

建部英敏選手(創設メンバー)

投手、外野手、三塁手、ヘッドコーチ

左投左打 172 cm 66 kg 1951年生れ

投手・56試合29勝9敗4S

打者・74試合187打数59安打 打率.316

79年度・81年度最高殊勲選手

〈バミューダズの思い出 “涙の勝利”〉

それは80年5月の出来事だった。結婚したばかりの建部は、サンスポ野球大会二回戦で先発したが左足首を捻挫した。急拠りリーフした金子は乱調気味だった。2-1のリードで迎えた最終回裏、それまで外野でじりじりしていた塩瀬が「おれが投げる」と言って出て来て同点打を打たれた。しかし、決勝のホームを踏むはずだったランナーを見事な連携プレーでホームでタッチアウトにできたのが、この試合の分れ目だった。その時何と審判は「抽選で勝負を決める」と言ったのだ。

一度は負けそこねたのだからどうにでもなれと建部が引いたクジには、見事「勝」印がついていた。強運である。その時、皆の目に何か光るものがあふれるのを建部は見た。

彼はそれから数週間、新妻の腕にかかえられて通院した。新妻はきっこう思っていたに違いない。“結婚早々、いやになっちゃう、この人。先が思いやられるわ”。(建部英敏)

浅井田貴選手(創設メンバー)

外野手・投手

右投右打 178 cm 66 kg 1951年生れ

投手・1試合0勝1敗

打者・23試合55打数12安打 打率.218

精悍な面構えで女性ファンの人気を集めた。

投手として一試合完投、勝利目前で逆転されたこともある。IEEE論文賞を獲得して学究

生活に入ってしまった。厚木でかわいいお嫁さんをもらったというウワサも流れて来る。もう一度カムバックして闘志あふれるプレーをみせてもらいたいものだ。

あがた
油田久仁雄選手（77年入団） 外野手

右投右打169cm 50kg 1948年生れ

29試合74打数14安打 打率.189

79年度衣笠賞受賞

日本人ばなれした姿態で、外野手として絶妙な守備を見せた。オーストラリアに赴任して4年目だが、「バミューダ・タイムス」の航空便を待ち焦がれ、東京に出張のたびごとにバ軍の試合に出場する熱狂草野球魂の持ち主である。巨人ファンでもあるが、麻雀とビールの愛好者で、徹夜麻雀で雀荘からグラウンドに直行した時の方がヒットが出た。粘り強い打者で三振は少ない。帰国後の復帰が望まれる。

安藤憲明選手（創設メンバー）

三塁手、一塁手、外野手

右投右打170cm 74kg 1948年生れ

50試合143打数34安打 打率.238

78年度最高殊勲選手

高校時代、甲子園を目指した男。バ軍創設より参加。幼年時代に長島にあこがれ、背番号3を死守している。野球理論にはうるさいがファイトを出さないことで有名。そのためにキャッチャーのポジションを追われ、サードを追われ、今やファーストと外野のポジションを死守することに四苦八苦である。有力新人の参加に脅えている選手の一人だが、右中間への長打など実力を持っているので、ファイトさえ出せば鈍足による暴走も絵になろう。

居山由彦選手（79年入団）

内野手（主にショート、二塁）

右投左打166cm 63kg 1954年生れ

55試合139打数32安打 打率.230

79年度盗塁王

〈バミューダズに寄せて〉

過酷な情熱野球集団バミューダズに入団して最早4年の歳月。盗っ人のように逃げ去ろうとする青春の首根っ子に縄をかけて、グラウンドの上で燃えたぎらせた魂。最初の対松下戦では火の玉小僧。足にケガしたふりをして盗塁をした。新人の年は盗塁王を盗んだ。2年目はバットをビュンビュン振り回した。おかげで、敵のキャッチャーがよく風邪をひいた。3年目には待望のライト頭上をはるかに越えるランニングホームランを打って、必死にホームにかけ込んだっけ。気がついてみると、ベッドの上にスライディングしていたなあ。そして去年は、四球で塁に出るのが仕事みたいな年だった。まあ、色々あったけれど、バミューダズとテニスと恋における、破れては立ち上がる不屈の精神のおかげで、私は青春の河を溯って、しだいしだいに若さの全盛期になっていくみたい。バミューダズはありがたきかな…（居山由彦）

飯田克美選手（78年入団） 外野手・一塁手

右投左打 173cm 63kg 1947年生れ

26試合71打数15安打 打率.211

〈イタリアからB軍の皆様へ！〉

ボンジョルノ！ミラノの朝はこの言葉と可愛い娘チャンのほほえみから始まります。ミラノに着いて今日で4日目、日本で習ったイタリア語が100%通じるのは嬉しい限り。しかし、いくら小生のイタリア語が通じて、問題はヒアリング。相手が違えば使う言葉も違い、アク

セントや表現の仕方に個性があり、理解するのが大変です。昨日は着任早々ローマに出張し、ローマ地区のセールスエージェントと会議を行ないました。もちろん小生は側に居て聞いていただけですが、彼等が何を言っていたのかさっぱり解りませんでした。これからどうなることやら。

イタリアの食事は本当においしいですね。スパゲティー、新鮮な魚貝類、それにピッツァの白ワイン、すべてが最高!! あまり食べ過ぎて皆様に醜体を見せないようにしなくては。もう少しイタリアの宣伝をしましょう。別に早くもイタリアかぶれしてしまった訳ではありませんが、素晴らしいことはやはり素直に認めなくては。何とイタリア人は親切なんでしょう。タクシー、レストラン、通行人、どこで接しても真剣に考え、教えてくれます。先日はじめていった場所ですてきな昼食時となり、たまたま通りかかった人に「この辺にいいレストランはないか?」と聞いたら三人がかりで話し合いがはじまり、ついに一軒のレストランを教えてくださいました。そこの味は…言うまでもありません。もちろんイタリアの悪い部分も見ましたし、日本では考えられないこともあるらしい。この3年間(?)でせいぜいイタリアの良い部分を吸収し帰国したいと思っております。

バミューダズ軍の今後の御健闘をイタリアより祈っております。チャオ!!
(82年11月、ソニーイタリア 飯田克美)

植山周一郎選手(79年入団) 外野手・一塁手
左投左打 170cm 65kg 1945年生れ
8試合22打数5安打 打率.227
79年新人王
長期の英国勤務を終え帰国後、直ちにバ軍に

入団した異色選手。シュアな打撃が10年間のギャップを乗り越えて颯々新人王を獲得した。その後ソニーを退社して事業を興し、バミューダズの陰の資本家として期待される。

榎並隆選手(78年入団) 捕手・投手・外野手
右投右打 174cm 65kg 1955年生れ
打者・47試合145打数48安打 打率.331
投手・6試合1勝1敗1S

80年最高殊勲選手

新潟出身の強肩強打。そのものズバリの怪男児。酒に強く女にも強い。つまり何にでも強いウラヤマしい男。しかも野球歴は新潟商業でレギュラー、甲子園の一步(?)手前まで行った。本職は外野だが、好守強打の大型捕手として大活躍、時には敵チームの投手として登板することもある野球の申し子。

内山秀敏選手(創設メンバー)

外野手、二塁手、バミューダ・タイムス編集長
右投右打 165cm 70kg 1949年生れ
64試合140打数16安打 打率.114

〈私のバミューダズ〉

バミューダズは不思議な魅力を持った集団である。単に野球の試合をするためだけの組織ではなく、高度な野球を中年になっても続けて行こうという高い目標を持ち、挑戦を続ける集団である。また同時に、野球のすべてを楽しむために創意工夫をし実行する有能なアイデアマンの集団である。

卓球、テニス、ラクビー、スキーなど数多くのスポーツを楽しむ私だが、日本で一番ポピュラーな野球にはあまり縁がなかった。バミューダズに参加してはじめて野球にとり組んだが、これまで続けて来ることができたのはバミュー

ダズのこのすばらしい魅力のためであろう。

今後は、挑戦をする中年、をモットーに巴軍の有力な戦力となるべく内野の守備と打撃、走塁に重点を置いてチャレンジを続けたい。(内山)

大橋洋行選手(80年入団)

三塁手、捕手、外野手、投手

右投右打 174cm 70kg 1957年生れ

打者・40試合114打数45安打 打率.395

投手・2試合0勝2敗

バミューダズの歴史は、BETAMAXと同じ1976年にはじまり、W. W. ロストウの、経済発展の諸段階で言えば、

①伝統的社会：バミューダをはいて野球をやっており、ニュートン以前の技術をもって、農業社会特有の地主小作階級制度が存在し、宿命的諦観の価値観が、打順・ポジションに顕著にあらわれていた。

②離陸期：一人当り国民所得が増加し、野球以外の遊びもハデになり、近代野球成立の必要条件である野球家精神のやる気意欲が拡大し、自給自足型から分業化が進み、外交関係の近代化を伴い、周囲に波及効果を及ぼす。

③成熟期：精神野球を基盤にメンバーの熟練化・専門職化・人口の集中が進み新技術と資本の輸入をもって経営(監督)と資本(OB会・名球会)との分離がおこる。

④高度大量消費時代：チームのトータルパワー・アップから社会的福祉・保障の充実、試合出場時間の短縮及び余暇嗜好性の拡大(テニス・ツアーなど)が現われてくるようになる。

BETAMAXから8mmビデオムービーへの転換期を迎えようとしている今、技術と自然肉体美が結婚した脱工業化型野球において、ハードからソフトへの戦略展開を、各々源氏型織

田信長的になすことが必要とされてくる。その為には、1番“トム・ジョーンズ”2番“赤と黒”型、3番“白鯨”型、4番“ゴリオじいさん”5番“カラマゾフの兄弟”型、6番“高慢と偏見”型、7番“ディビット・カバフィールド”、8番“嵐が丘”型、9番“ボヴァリー夫人”型選手を使い、控えとして“戦争と平和”型選手を用意しておく、というようなユニークな起用がキーポイントとなるであろう。こうして、強いバミューダズをベースにライフ・フレンドとしてのもう一つのバミューダズを作っていきたい。コンクリートジャングルの街角で、ふと立ち止まりスイングドアを押して見れば、そこにはバミューダズ・パラダイスの風が吹いているかも…… (大橋洋行)

加藤千武選手(創設メンバー)一塁手・外野手

左投左打 170cm 68kg 1936年生れ

26試合58打数10安打 打率.173

78年技能賞獲得

ファンクラブの女性と恋におち結婚した、第一号選手。おまけに新婚さんしかもらうことのできない技能賞を獲得した唯一の選手だ。

現役時代は張本選手を信奉。背番号は10、打撃フォームも張本そっくり、ヘアースタイルまで角刈りだった。若い頃に登山で鍛えた足腰はねばり強くヒットは長打になるものが多かった。選歴野球の推進者として、彼の現役復帰を求める者が多い。

鐘江美親選手(79年入団)内野手・投手

右投右打 173cm 62kg 1953年生れ

打者・19試合51打数10安打 打率.196

投手・1試合1勝0敗

機敏な内野手として活躍が続けたが、80年

11月の岡村のんべず戦に念願かなって投手として登場、横手から繰り出すクセ球に敵打者は凡打を重ねた。この日で燃え尽きたか、その後出場回数が少ない。再起を望む。

金子治選手(77年入団) 投手・外野手

左投右打173cm 60kg 1955年生れ

投手・21試合8勝6敗1S

打者・52試合138打数28安打打率.203

77年優秀投手賞 80年首位打者賞

初期のパミュージアズ投手陣を建部とともに支えた。スリークォーターの左腕から繰り出す速球と天井から曲り落ちるカーブで、ナイターに強い投手として活躍した。

打撃は全く弱く毎年三振王レースを賑わしていたが不思議と松下戦ではタイムリーを打ち、松下ゴロンの異名をとった。ところが、80年に左打ちを右打ちに変えてから大変身、シュアなバッティングでセンター・レフトへと次々にクリーンヒット、なんと4割という高打率で首位打者賞を獲得、世間を驚かした。現在は、チームの中心選手として確実なバッティングと、安心して任せられる外野守備で活躍中。

川久保伸選手(82年入団)

右投右打167cm 61kg 1954年生れ

7試合11打数0安打

なにしろヒットを打ちたい。まだノーヒットなので、運転免許も早くとりたいが、ヒットを打つ方が大事だ。それには毎晩家で素振りをしななければならないけれど、ピアノも弾けるようになりたいし、片手にバット片手に鍵盤という訳にはいかないだろうね。今年は子づくりでもホームランをかつ飛ばしたい。(川久保伸)

神原貞昭選手(創設メンバー) 内野手

右投右打180cm 68kg

11試合33打数7安打 打率.212

77年度最高殊勲選手

選球眼が良く、塁に出れば果敢な盗塁、守備も華麗と三拍子揃ったバ軍創設期の名選手。

弁理士試験に合格、独立して神原特許事務所を開業した。

鬼頭英二選手(81年入団) 外野手・一塁手

左投左打 175cm 65kg 1957年生れ

6試合12打数5安打 打率.417

デビュー戦で初打席初ホームという放れ業をやつてのけた。そのドラマチックさは彼の過去のいたるところに表れている。バ軍入団前、大学時代は教育大附属高校の野球部監督をしていたという大物。しかも入団の翌年には並み居るマスコミの強者共の目をくぐり抜け同棲生活を始め、様々なスベックを確認後に結婚式を挙げるといふ、名前に違わぬ偉業を為しとげた。

彼のファーストのキャッチングは、かの王選手も眼を丸くし、タブチ選手がのみこんだツバをノドにひっかけてむせ込んだというほど華麗。現在はエジプトのカイロで、砂塵にまかれて消える魔球を打つ特訓にとりくんでいる。

小林剛選手(77年入団) 外野手・内野手

右投右打 174cm 74kg 1950年生れ

62試合165打数32安打 打率.194

77年度新人王

広島之星として入団した77年は3割を打ち、栄光ある初代新人王に輝いたが、翌年の開幕戦に3打席3三振を喫し、以後栄光の座からは遠ざかってしまった。しかし豪快な性格と突然カタメ打ちをする意外性を秘めた選手として女性

ファンの人気を集めバ軍の名物男となった。

82年秋に、新しい野球市場を開拓するためシンガポールに赴任、現在は南十字星のもとで、ダイナミック・ベースボールに取りくんでいる。

斉藤喜美雄選手(82年入団)内野手

右投右打 173 cm 65 kg 1947 年生れ

3試合7打数0安打

山形の名門、酒田商業のレギュラー、ショートで一番を打っていた。現在は渋谷の強豪、帝国石油チームで活躍中だが、彼の経営する新宿西口(南口)のカラオケスナック「ラ・ボン」と藤本選手のとりもつ縁でバ軍との関係が急速に深まっている。あの佐川急便戦での絶妙な送りバントが光る。今シーズンは期待できそうだ。

佐々木よう子選手(78年入団)一塁手

左投右打 167 cm 52 kg

8試合10打数1安打 打率.100

バミューダズの誇る女性選手第1号。ソフトボール仕込みの華麗な守備で人気を集め、サンケイ・スポーツに2回も登場した。写真家として大成すべく82年初夏からヨーロッパ、アメリカの旅に出、同年暮れ、無事帰国した。

渋谷和明選手(82年入団)

一塁手、外野手、捕手

右投右打 174 cm 69 kg 1958 年生れ

11試合34打数12安打 打率.353

82年度新人王

〈ある日の出来ごと〉

ソニーに入社し、予想もつかなかった特許部という殆んど身体を動かさない部に配属された時、せめて休日にでも身体を動かさなければ身が保たないと思い立ち、中学時代にやっていた

野球をやってみようという事で、バミューダズに入団を希望。そしてある日の入団テスト?

「その〜野球チームに入りたいのですが。」
と言。すると「これがメンバー表で、今月の試合は〇〇日と××日…来月は…で〇〇グラウンド。グラウンドの地図はこれ…」という答え。私はただボウ然!! 何と答えていいのか、知らないうちにバミューダズに入団してしまっていた。今振り返ればあの日の出来事が入団テスト?であったと思われ、非常に難しいテストであったと考えられます。あの時「ハイ」と言わなければ、今日バミューダズには入っていなかったのでは?と思われます。あの日あの時から私の人生は大きく野球狂の時代へと旅立って行ったのです。でもホッとしました。我がバ軍のメンバーを見た時、自分はまだ野球狂のかけ出しであって「上には上がいる」ということがわかったのです。(渋谷和明)

鈴木満夫選手(81年入団)

投手、三塁手、外野手

右投右打 170 cm 65 kg 1950 年生れ

投手・11 試合6勝0敗

28試合82打数21安打 打率.256

81年度新人王 82年度最優秀投手賞

バミューダズに入って2年目の82年はピッチャーとして、まず1勝をとっていたが、11月までに6勝2分と自分でも信じられない位の勝ちに恵まれた。時には2日酔いでマウンドに上ることもあったが酒も汗となってしまう心地よい疲れへと変わったこともあった。ピッチングの組立ても試合を重ねるにつれ、うまく行くようになった。

また、失敗もあった。10月31日の対岡村のんべーず戦では初球をホームランされた。そ

れ以後、少し腕を下げ気味の技法に変えてみた。カーブのコントロールが良くなり、中二日おいての11月3日、対佐川急便戦ではカーブを8割投げ、初の完封勝ちを飾ることができた。

バミューダズでは仕事とは違った形で、多勢の人と会うことができた。対戦相手の職業もさまざまであったが皆、野球の好きな仲間ばかりであった。これからは、いつか全国草野球大会に出場できることを目標に皆とがんばって行きたい。健康のためにも。(鈴木満夫)

John Youngblood選手

三塁手(81年入団)

右投右打 198cm 85kg

2試合7打数2安打 打率.286

助っ人ブラッドと言われた男。身の丈2mの巨漢!巨砲? ショート藤本(164cm)との凸凹コンビで笑いを誘い、バッターの打ち気をなくす特技の持ち主。学業の都合で滞日予定を繰り上げ、82年初めに惜しくも帰国した。

田中啓介選手(80年入団) 内野手

右投右打 176cm 73kg 1956年生れ

16試合33打数4安打 打率.121

学生時代からスポーツは剣道一筋。野球は小学生時代に少しやっていた程度でバミューダズに入るまでの十数年間ほとんどやっていなかった。現在バミューダズに入ってから二年半、それなりに面白さも感じ始めている。守備は一塁、打順は7・8番が多い。どちらも未だ満足できるものではない。まだまだ練習が必要だ。

昨シーズンは公私ともに忙しく、あまり試合には参加できなかったが、今シーズンは一試合でも多く参加したい。目標は、年間総試合数の半分以上参加、打率3割以上としたい。(田中)

滝川貞夫選手(77年入団) 内野手

右投右打 167cm 56kg

8試合20打数6安打 打率.300

大崎工場の「バリオ」から引抜いた内野手で広島ファン。内に秘めた闘志と横手から繰り出すスローイング、シュアなバッティングは、バ軍には貴重な存在。近く米国・サンディエゴ工場より帰任する予定なので野球向きの体型は女性ファンを魅了するであろう。

徳光始選手(80年入団) 外野手・捕手

右投右打 163cm 60kg 1957年生れ

33試合89打数20安打 打率.225

82年度本塁打王

外野を守らせたら天下一品。広い守備範囲と鉄砲肩は対戦相手の恐怖の的。時にはその強肩を活かして本塁を守ることもある。

バッティングは最近、軟球に慣れ長打が多くなった。乱戦で飛び出すホームランは一発必殺。今年はぶっちぎり本塁打王を狙う。

Tom Dickens選手(82年入団)

三塁手

右投右打 186cm 78kg 1957年生れ

5試合10打数2安打 打率.200

これ迄の“助っ人”と同じくミネソタ州カールトン大学の卒業生である。82年初めジョンの後任として来日するとすぐに我がバミューダズに入団した。初年度はC D Iでの英語授業や日本文化吸収に忙しく出場試合は少なかったが、82年夏には米国より彼女を呼び寄せ日本に溶け込もうとしているのでこれからの活躍が期待される。

野村尚文選手(78年入団) 内野手

右投右打 160cm 50kg 1954年生れ

29試合71打数19安打 打率.268

78年度新人王

小さな身体で俊足を飛ばし、華麗なキャッチング、鋭い打球と果敢な走塁でたちまちスターの座につき、その上ファンクラブの一女性を射とめるという場外ホームランを打った歴代二人目の男。そのデビューはあまりに華やか、規定打率には達しなかったが0.375を打ち、マボロシの首位打者として、78年の新人王に輝いた。

しかし、歴代の新人王の多くが悲劇の末路を辿ったのと同様、彼もその後鳴かず飛ばず、出場試合数の少なさと遅刻の多さで悪評をとった。

昨年に米国へ赴任、本場の野球を勉強中。数年後にはヘンダーソンの盗塁術を盗み出して帰国し、バ軍に復帰することが期待されている。もちろん彼が国外に持ち出した“マンモスのお弁当箱”はニューヨークのTax Free Shopのおみやげとなろう。

野村茂選手(83年入団) 内野手

右投右打 177cm 70kg 1950年生れ

最近9才歳下の女性と結婚したウラヤマンイ人だ。今年期待される大型旧人である。これまで7年間、人事・勤労チームに所属してバ軍と戦って来たが、年功序列打線にあきて、ついにバ軍に入団することになった。今年は半分以上の試合に出場、3割を打ち新人王を獲得することが目標だと語った。

これまでお客さんとしてバ軍の試合4試合に出場、7打数3安打3打点3盗塁の好成績を残している。また、選球眼も良く、14打席のうち半分が四球で出塁している。眉山と四球王を争うか？

樋口謙三選手(78年入団) 外野手

右四つ 178cm 85kg 1955年生れ

42試合65打数3安打 打率.046

79年 三ッ竜賞

立ち合いのぶちかましから巨腹を波打たせてのガブリ寄り、押し出しを得意ワザとするバ軍の異色選手。彼の術中にはまって押し出された投手の数は多い。更にもう一つの得意ワザに巨体を利してのベース上 正固めがあるが、相手野手が殺気を感じて早逃げするため、なかなかこの技をひろうる機会に恵まれない。バットを持つての凶器攻撃は、優しい心の持ち主なので不発に終ることが多い。恵まれた巨体を十分活かしていないので、まだまだ伸びる可能性がある。

藤本和彦選手(80年入団) 内野万能投手も可

右投右打 164cm 61kg 1951年生れ

41試合127打数30安打 打率.236

81年度敢闘賞受賞

バミューダズの快傑黒スキン。野球と宴会のために生れて来た男。昼夜を問わず大活躍。

(昼の部) 土日は必ず試合。4チームに所属して一日に3試合出場などはザラ、年間に50試合をこなす。ショートにサード、セカンド、捕手もできるし投手も可。ポジションを選ばず試合があれば必ずやってくる。

(夜の部) ギターを持たせたら夜が明けても離さない。新宿で本物のプロだった。今でも即座に1000曲は弾けるし、新曲はどんどん取り入れる。演歌・春歌は宵の口、得意中の得意はレコード発禁歌。「キンタの大冒険」「お万の方」「快傑黒頭巾」の三部作が女性ファンを魅了している。81年の佐久と82年の軽井沢の合宿では、宴会は彼のリサイタルに早変わりし、ホテル中を興奮のウズに巻き込んだ。

Paul Fraker選手(79年入団) 三塁手

右投右打 165cm 62kg

12試合34打数10安打 打率.294

事実上の初代外人選手として三塁を守る。背中にリュックを背負ってヒッチハイクスタイルで鶴の木に現れたことは近所の人々にも有名。小さな身体であったが腕力では右に出る者はなかった。時として放つ外野越えの長打はスタンドのファンを喜ばした。また、三振やエラーをした時に見せる気落ちした表情は、いかにもガックリという感じで、日本の女性ファンの同情をひくことが多かった。惜しまれつつ80年秋帰国した。(米国・ミネソタ州出身)

藤村浩選手(80年入団) 外野手・内野手

右投右打 162cm 61kg 1935年生れ

タイムトンネルをくぐり抜け天下選手が復活したような、古き良き二十年代のダブダブのユニフォームで登場。しかも走る走る。センター・オーバーのライナーもランニング・キャッチ、塁に出れば華麗なスライディングで盗塁成功。若い者の出る幕はなさそうである。海事本部G & Aの選手だが、過去2試合に友情出演、3盗塁と俊足ぶりを披露した。

Marty Raths選手(80年入団) 三塁手

10試合22打数1安打 打率.045

キリストの再来を思わせる優しい横顔!

(神学部出身)。その為か打撃はいまひとつだったが、守備では、本場仕込みの華麗なフィールディングと速いプレーを見せてくれた。惜しまれつつ、81年秋、帰国。(米国、ミネソタ州出身)

古川遣人選手(80年入団) 一塁手

右投右打 170cm 53kg 1940年生れ

19試合49打数15安打 打率.306

現役の最長老として堅実なバッティングと内野守備を誇る。しかもその趣味の多彩なこと、バミューダズ文化のすべてを結集したかのような。野球はもちろん、海に出ては釣りを楽しみ、紙に向えば俳句に溜息。酒に登山、カラオケをバックに歌も楽しむ。まさにバ軍の人間国宝。今後も若い選手の指導役として又、バリバリの現役としての活躍が大いに期待される。

横野滋選手(82年入団) 内野万能

右投右打 167cm 60kg 1948年生れ

1試合2打数1安打

83年は半分以上の試合に出場したい。打率は5割を打ちたい。ポジションは内野ならどこでもこなせる自信がある。最近体力の衰えを感じているので、もう一度花を咲かせる意味で体力の限界に挑戦するつもりだ。私生活では二児のパパで自由奔放に育てており、今のところうまく行っている。最近では推理小説に凝っている。又、学生の頃によくやった登山も始めようと思っている。(横野滋)

守屋文彦選手(78年入団) 内野手

右投右打 167cm 65kg 1955年生れ

15試合25打数4安打 打率.160

俊足を買われて入団したが、試合中ゴロを足でけってしまってから人生観が変り、そのままサッカー選手として再出発してしまった。

小美野久代選手(78年入団) 内野手

女性選手第二号。公式戦には出なかったが、マネージャーとして活躍、かわいがられた。

松本哲郎選手（創設メンバー）二塁手・元投手

右投右打 174cm 70kg 1944年生れ
打者・57試合161打数31安打 打率.193

投手・5試合0勝2敗

76年度最高殊勲選手 78年度タブチ賞

根っからの広島気遣い。カープがセ・リーグで初優勝した時、歓喜のあまり仕事を休み、両国の広島の常宿で舞いおどったという。これを契機に心労のあまり、髪の毛がかなり抜け落ちたと言われている。広島を会社の仕事に持ち込みソニー・ファミリー誌上で、宮本取締役と古葉監督の対談を実現させた。

パ軍においても麻雀と同様勝負強く、創設の年76年にはMVPを獲得した。しかし、彼の力はこの年を境に下り坂、78年にはナインの期待に反し超低打率。前代未聞のタブチ賞を受賞させられ、素振りの刑に服した。試合の途中、応援しに来ていた長女が、塩瀬選手を「パパ、がんばって」と呼んで以来、同選手と兄弟仁義を結んでいる。

最近、仕事に燃えているためかグラウンドに姿を見せないが、あの情熱あふれるプレーを見たいというナインは多い。還暦野球を目標に再起が望まれる。

記録

打 撃 成 績 （1976年）

選手名	打率	試	席	数	得	安	打	盗	犠	球	振	残	本	三	二
松 本	.500	3	9	8	0	4	2	1	0	1	0	2	0	0	2
内 藤	.400	2	5	5	0	2	1	1	0	0	0	2	0	0	0
建 部	.333	3	9	6	3	2	0	1	0	3	0	3	0	0	0
神 原	.300	3	12	10	1	3	1	3	0	2	2	3	0	0	1
塩 瀬	.111	3	11	9	2	1	0	0	0	2	1	1	0	0	1
浅井田	.000	3	9	6	1	0	0	0	0	3	1	3	0	0	0
加 藤	.000	3	7	5	0	0	1	0	0	2	2	2	0	0	0
安 藤	.000	3	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
斉藤(崎)	.666	1	4	3	1	2	1	0	0	1	0	2	1	0	0
内 山	.333	3	4	3	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	0
(以下略)															
チーム計	.205	3	89	73	8	15	8	6	0	16	8	21	1	0	4

投 手 成 績 （1976年）

選手名	試合	回数	打者	三	安	球	失	責	勝	敗	S
建 部	3	20	78	27	5	7	5	1	2	0	0

打 撃 成 績 (1 9 7 7 年)

選 手 名	打 率	試 席	数	得 安	打 盗	犠 球	振 残	本 三	二
建 部	.380	8	27	21	8 8	10 3	0 6	0 8	1 2 2
神 原	.333	4	15	12	4 4	1 2	0 3	3 2	0 0 1
小 林	.315	7	23	19	3 6	6 2	0 4	4 7	1 1 3
加 藤	.285	7	17	14	1 4	1 2	0 3	2 5	0 0 0
浅 井 田	.235	6	20	17	3 4	3 3	0 3	5 5	0 0 1
松 本	.217	7	27	23	4 5	3 5	0 4	4 9	0 0 2
安 藤	.217	6	23	23	5 5	6 5	0 0	2 2	2 0 0
内 山	.111	8	19	18	1 2	1 1	0 1	6 3	0 1 1
塩 瀬	.091	8	29	22	6 2	2 6	0 7	11 4	1 0 0
金 子	.083	5	13	12	1 1	0 1	0 1	2 1	0 0 0
阿 川 (弟)	.666	1	3	3	0 2	1 4	0 0	0 2	0 0 0
油 田	.250	3	11	8	4 2	0 2	0 3	2 2	0 0 0
町 田	.143	3	10	7	3 1	1 1	0 3	3 1	0 0 0
小 沢	.000	2	4	4	0 0	0 0	0 0	1 1	0 0 0
牧 島	.000	1	5	4	1 0	0 0	0 1	1 0	0 0 0
滝 川	.000	1	5	3	1 0	1 0	1 1	1 0	0 0 0
斉 藤 (真)	.000	1	3	3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0 0
小 松 原	.000	1	1	1	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0 0
阿 川 (兄)	.000	1	1	1	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0 0
チー ム 計	.214	8	256	215	45 46	36 37	1 40	49 52	5 4 10

投 手 成 績 (1 9 7 7 年)

選 手 名	試 合	回 数	打 者	三 安	球 失	責	勝	敗	S
建 部	7	32	135	48 25	8 22	14	4	1	0
金 子	3	10	45	7 12	4 8	4	0	1	0
松 本	3	8	52	0 13	8 18	8	0	2	0
小 松 原	1	1	6	0 3	1 2	1	0	0	0
チー ム 計	8	51	238	55 53	21 50	27	4	4	0

打 撃 成 績 (1 9 7 8 年)

選手名	打 率	試 席	数	得 安	打 盗	犠 球	振 残	本	三	二					
安 藤	.333	11	37	30	6	10	6	9	0	7	4	5	0	1	2
塩 瀬	.178	10	32	28	5	5	2	12	1	3	11	5	1	0	2
浅井田	.166	7	21	18	2	3	0	5	0	3	4	8	0	0	0
小 林	.143	14	43	35	6	5	7	11	0	8	12	9	1	0	1
油 田	.136	9	30	22	3	3	2	4	0	8	6	8	0	1	0
建 部	.130	11	34	23	7	3	7	8	1	10	1	4	1	0	0
加 藤	.120	10	28	25	3	3	3	3	0	3	8	5	0	1	1
内 山	.111	12	27	27	2	3	0	1	0	0	7	3	0	0	0
松 本	.094	13	42	32	2	3	2	10	0	10	8	12	0	1	0
金 子	.091	11	29	22	3	2	2	5	0	7	14	6	0	0	1
野村(尚)	.375	5	17	16	4	6	2	5	0	1	1	7	0	1	0
藤 方	.307	4	13	13	2	4	3	0	0	0	4	2	0	1	1
飯 田	.200	4	13	10	2	2	3	4	0	3	1	3	0	0	1
守 屋	.125	5	12	8	2	1	0	5	0	4	4	3	0	0	0
神 原	.000	3	12	8	1	0	0	3	0	4	0	2	0	0	0
榎 並	.500	2	8	8	3	4	0	5	0	0	0	2	0	0	1
高 木	.500	1	2	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
渕 本	.286	3	8	7	2	2	1	0	0	1	4	0	0	0	0
滝 川	.250	1	4	4	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0
阿川(悦)	.125	4	8	8	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0
佐々木	.000	5	6	4	0	0	0	2	0	2	1	1	0	0	0
樋 口	.000	4	8	5	1	0	1	0	0	3	3	0	0	0	0
(以 下 略)															
チーム計	.174	15	443	363	58	63	41	94	2	78	100	88	3	6	10

投 手 成 績 (1 9 7 8 年)

選手名	試合	回	数	打者	三	安	球	失	責	勝	敗	S
建部	10	59		238	74	32	20	17	8	5	1	2
金子	5	29	2/3	145	25	25	23	25	17	2	2	0
高木	1	4	2/3	22	3	5	4	3	2	0	1	0
渕本	1	6	2/3	41	7	9	12	11	8	0	0	0
チーム計	15	100		446	109	71	69	56	35	7	4	2

打 撃 成 績 (1979年)

選手名	打率	試	席	数	得	安	打	盗	犠	球	振	残	本	三	二
11 建 部	.364	14	53	44	14	16	16	5	0	9	1	17	2	0	3
13 居 山	.333	14	51	42	8	14	8	18	0	9	9	10	0	1	3 ⁴
4 榎 並	.316	13	51	38	11	12	7 ⁸	8 ⁶	0	13	6	13	1	1	1
5 植 山	.263	7	22	18	1	5	5 ¹	(2)	1	3	5	6	0	0	1
6 塩 瀬	.250	11	35	28	5	7	8	0	1	6	4	7	3	0	1
6 野 村 (尚)	.250	10	34	24	8	6	4 ³	7	0	10	4	7	1	1	0
9 油 田	.195	15	54	41	12	7 ⁸	7 ¹	8	0	13	13	13	0	0	2
8 小 林	.188	12	38	32	7	6	5	6	0	6	11	5	1	0	3
11 松 本	.143	11	36	28	4	4	4	4	1	7	6	9	1	0	0
12 金 子	.105	9	22	19	4	2	1	3 ¹	1	2	8	0	0	0	0
12 樋 口	.100	12	27	20	4 ⁵	3 ²	0	0	0	7	11	5	0	0	0
2 滝 川	.385	6	23	13	8	5	5	5	0	10	1	8	0	1	1
守 屋	.250	6	14	12	2	3	3 ⁰	3	0	2	5	4	0	0	0
加 藤	.214	6	16	14	3	3	3	1	1	1	7	3	0	0	2
鐘 江	.100	3	12	10	1	1	0	2	0	2	1	1	0	0	0
飯 田	.083	4	16	12	1	1	1	1	0	4	3	5	0	0	0
Paul Fraker	.429	3	11	7	1	3	2	0	0	4	3	5 ¹	0	3	0
安 藤	.333	2	6	6	1	2	1	0	0	0	2	1	0	0	0
内 山	.200	3	7	5	1	1	2	0	0	2	2	2 ¹	0	1	0
浅 井 田	.200	3	5	5	0	1	2	1	0	0	1	1	0	0	1
野 村 (茂)	1.000	1	4	1	1	1	0	0	0	3	0	3	0	0	0
(以 下 略)															
チーム計	.244	17	558	439	101	107	78	70	4	115	106	130	9	8	19

投 手 成 績 (1979年)

選手名	試合	回数	打者	三	安	球	失	責	勝	敗	S
建 部	12	67 1/3	264	74	57	48	41	29	2	3	0
金 子	56	32	153	33	33	15	21	12	3	2	0
榎 並	2	11 1/3	50	9	8	10	7	7	1	1	0
松 本	2	3	19	2	4	6	5	4	0	0	0
塩 瀬	1	1	4	1	0	1	0	0	0	0	0
チーム計	17	108 2/3	490	119	102	50	77	52	10	6	0

打 撃 成 績 (1 9 8 0 年)

選手名	打率	試	席	数	得	安	打	盗	犠	球	振	残	本	三	二
金子	.400	13	43	40	9	16	7	6	0	3	6	8	0	0	3
古川	.307	10	28	26	7	8	2	8	0	2	4	6	0	0	0
榎並	.286	19	71	56	25	16	19	15	2	13	3	14	3	1	3
大橋	.263	13	44	38	11	10	4	11	0	6	1	11	1	2	1
Paul Fraker	.259	9	32	27	4	7	5	4	0	5	7	9	0	0	2
松本	.250	12	42	36	4	9	2	7	0	6	2	11	0	0	0
鐘江	.236	14	44	38	10	9	2	7	0	6	2	9	0	1	2
塩瀬	.220	23	73	59	11	13	18	10	0	14	17	16	2	0	6
小林	.205	14	46	39	6	8	6	6	0	7	10	5	0	1	2
居山	.193	12	40	31	7	6	2	8	0	9	6	12	0	0	0
建部	.185	13	38	27	5	5	4	6	1	10	2	7	0	2	0
藤本	.172	11	33	29	2	5	2	3	0	4	2	10	0	0	2
徳光	.120	9	31	25	8	3	2	6	1	5	5	5	0	0	1
内山	.038	14	35	26	2	1	4	0	0	9	5	6	0	0	0
浅井田	.444	4	12	9	1	4	1	0	0	3	3	5	0	0	1
安藤	.250	6	22	20	2	5	2	3	0	2	2	3	1	0	1
野村(尚)	.166	6	15	12	5	2	1	0	0	3	2	3	0	0	1
田中	.118	10	25	17	3	2	1	4	0	8	7	2	0	0	0
飯田	.118	5	21	17	4	2	0	5	0	4	6	4	0	0	1
Marty Rath	.083	6	14	12	2	1	0	3	0	2	5	3	0	0	0
樋口	.000	6	8	7	1	0	1	0	0	1	5	2	0	0	0
油田	.333	2	4	3	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1
佐々木	.250	2	4	4	0	1	2	0	0	0	2	1	0	0	0
(以 下 略)															
チーム計	.217	24	759	626	132	136	91	120	4	129	112	160	7	7	28

投 手 成 績 (1 9 8 0 年)

選手名	試合	回数	打者	三	安	球	失	責	勝	敗	S
塩瀬	14	74	304	67	38	48	22	16	11	1	0
建部	8	31	117	26	17	7	4	2	2	1	0
金子	6	32	151	33	22	28	22	14	3	0	1
榎並	3	7	32	6	4	7	4	2	0	0	1
大橋	1	7	35	5	4	7	4	1	0	1	0
鐘江	1	3	14	0	2	4	1	1	1	0	0
浅井田	1	61/3	36	4	4	7	5	4	0	1	0
チーム計	24	1601/3	689	141	91	108	62	40	17	4	2

打 撃 成 績 (1 9 8 1 年)

選手名	打率	試	席	数	得	安	打	盗	犠	球	振	残	本	三	二
建 部	.528	14	53	36	12	19	11	7	2	15	2	21	0	3	4
鈴 木	.417	9	29	24	13	10	2	7	0	5	3	5	0	0	2
大 橋	.412	12	39	34	8	14	9	13	0	5	0	12	2	0	3
榎 並	.382	10	37	34	8	13	5	10	0	3	3	8	1	0	1
藤 本	.292	13	56	48	17	14	11	16	0	8	5	12	2	2	1
居 山	.250	11	38	28	10	7	4	6	0	10	7	7	0	1	0
安 藤	.233	11	33	30	4	7	5	1	1	2	9	4	0	0	3
塩 瀬	.229	17	59	48	13	11	10	4	0	11	15	12	2	1	3
徳 光	.207	10	36	29	10	6	8	10	0	7	4	8	1	0	2
金 子	.166	7	26	24	1	4	3	2	0	2	4	8	0	0	0
内 山	.147	12	36	34	2	5	3	3	0	2	3	5	0	0	0
樋 口	.045	12	28	22	1	1	1	0	0	6	11	5	0	0	0
鬼 頭	.300	5	13	10	5	3	1	10	0	3	2	1	1	0	0
飯 田	.267	6	16	15	3	4	3	1	0	1	2	4	0	1	2
野 村 (尚)	.250	6	22	16	6	4	6	3	0	6	3	3	1	0	1
小 林	.222	6	20	18	2	4	5	3	0	2	4	5	0	1	1
田 中	.166	5	16	12	4	2	3	3	0	4	1	3	1	0	0
松 本	.125	5	17	16	2	2	0	1	0	1	3	1	0	0	1
Marty Raths	.000	4	12	10	2	0	1	1	0	2	4	0	0	0	0
古 川	.333	4	9	9	3	3	2	1	0	0	1	1	0	1	1
J.Young blood	.286	2	8	7	1	2	0	0	0	1	2	3	0	0	0
竹 淵	.166	3	9	6	2	1	0	2	0	3	1	2	0	0	0
原	.143	3	7	7	1	1	1	2	0	0	4	1	0	0	0

(以 下 略)

チーム計 .257 19 645 541 131 139 94 109 3 101 100 136 11 10 26

投 手 成 績 (1 9 8 1 年)

選手名	試合	回数	打者	三	安	球	失	責	勝	敗	S
建 部	9	51 1/3	196	59	31	8	12	7	8	1	0
塩 瀬	10	50	258	53	57	40	62	40	2	4	0
金 子	1	5	27	6	8	2	7	5	0	1	0
竹 淵	1	4	15	4	2	0	1	0	0	0	0
大 橋	1	2	11	1	1	4	2	2	0	1	0
榎 並	1	4	18	4	2	2	4	3	0	0	0
鈴 木	1	7	35	8	6	3	7	2	0	0	0
チーム計	19	123 1/3	560	135	107	61	95	59	10	7	0

打 撃 成 績 (1 9 8 2 年)

選手名	打率	試	席	数	得	安	打	盗	犠	球	振	残	本	三	二
大橋	.500	15	46	42	18	21	13	14	0	4	0	10	3	2	4
洪谷	.353	11	35	34	12	12	9	6	0	1	2	9	0	2	4
飯田	.352	7	22	17	6	6	6	1	1	4	1	3	2	0	1
塩瀬	.351	21	65	54	17	19	16	11	1	10	12	12	4	1	6
徳光	.314	14	44	35	11	11	11	6	0	9	6	8	4	1	2
松本	.227	6	20	18	4	4	0	1	0	2	4	2	0	1	1
藤本	.220	17	63	50	17	11	8	16	0	13	0	15	1	2	2
安藤	.208	11	26	24	5	5	5	3	0	2	4	6	1	0	1
建部	.200	11	35	30	5	6	3	7	0	5	1	11	0	2	2
鈴木	.190	19	65	58	7	11	10	9	0	7	4	11	0	0	0
金子	.142	7	21	21	3	3	4	3	0	0	4	4	0	0	0
小林	.136	9	24	22	3	3	1	0	1	1	7	2	0	0	0
居山	.131	18	64	38	12	5	3	14	0	26	5	14	0	0	1
内山	.111	12	29	27	0	3	1	0	0	2	7	5	0	0	0
榎並	.333	3	9	9	2	3	5	3	0	0	1	2	0	1	1
古川	.267	5	15	14	2	4	1	0	0	1	0	2	0	0	0
Tom Dickens	.200	5	11	10	0	2	1	1	0	1	7	2	0	0	0
樋口	.000	8	12	11	2	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
川久保	.000	7	11	11	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0
鬼頭	1.000	1	4	2	3	2	1	3	0	2	0	1	0	1	0
野村(茂)	1.000	1	2	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0
横野	.500	1	2	2	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0
野村(尚)	.333	2	4	3	1	1	1	2	0	1	1	1	0	0	0
今村	.250	2	5	4	2	1	3	1	0	1	0	0	0	1	0
斉藤(葛)	.000	3	9	7	1	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0
田中	.000	1	4	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
日野	.000	1	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(以下略)															
チーム計	.243	22	706	597	148	145	110	110	4	105	88	130	16	14	25

投 手 成 績 (1 9 8 2 年)

選手名	試 合	回 数	打 者	三	安	球	失	責	勝	敗	S
鈴 木	10	58	253	45	41	37	34	27	6	0	0
塩 瀬	12	59 1/3	275	50	53	35	46	25	4	4	0
建 部	8	29 2/3	107	47	16	5	8	6	2	2	2
チー ム 計	22	147	635	142	110	77	88	58	12	6	2

通算打撃成績 (1976年~1982年)

選 手	打 率	試 合	打 席	打 数	得 点	安 打	打 点	盗 塁	犠 打	四 死 球	三 振	残 塁	本 塁 打	三 塁 打	二 塁 打
大 橋	.395	40	129	114	37	45	26	38	0	15	1	33	6	4	8
榎 並	.331	47	176	145	49	48	37	39	2	29	13	39	5	3	7
建 部	.316	74	249	187	54	59	51	37	4	58	7	71	4	9	11
古 川	.306	19	52	49	12	15	5	9	0	3	5	11	0	1	1
野村(尚)	.268	29	92	71	24	19	13	17	0	21	11	21	2	2	2
鈴 木	.256	28	94	82	20	21	12	16	0	12	7	16	0	0	2
安 藤	.238	50	157	143	23	34	25	21	1	13	23	21	4	1	7
藤 本	.236	41	152	127	36	30	21	35	0	25	7	37	3	4	5
塩 瀬	.234	93	304	248	59	58	56	43	3	53	71	57	13	2	19
居 山	.230	55	193	139	37	32	17	46	0	54	27	43	0	2	4
徳 光	.225	33	111	89	29	20	21	22	1	21	15	21	5	1	5
浅井田	.218	23	67	55	7	12	6	9	0	12	14	22	0	0	3
飯 田	.211	26	88	71	16	15	13	12	1	16	13	19	2	1	5
金 子	.203	52	154	138	21	28	17	18	1	15	38	27	0	0	4
鐘 江	.196	19	59	51	11	10	2	9	0	8	4	10	0	1	2
小 林	.194	62	194	165	27	32	30	28	1	28	48	33	3	3	10
松 本	.193	57	193	161	20	31	13	29	1	31	27	46	1	2	6
油 田	.189	29	99	74	20	14	6	15	0	25	21	26	0	1	3
加 藤	.172	26	68	58	7	10	8	6	1	9	19	15	0	1	3
内 山	.114	64	157	140	8	16	13	5	0	17	30	24	0	2	1
樋 口	.046	42	83	65	10	3	3	0	0	18	35	12	0	0	0
(50打席以下)															
野村 茂	.429	4	14	7	4	3	3	3	0	7	0	5	0	0	0
鬼 頭	.417	6	17	12	8	5	2	13	0	5	2	2	1	1	0
渋谷	.353	11	35	34	12	12	9	6	0	1	2	9	0	2	4
滝 川	.300	8	32	20	9	6	6	6	1	11	3	8	0	1	1
B.Fraker	.294	12	43	34	5	10	7	4	0	9	10	13	0	3	2
藤 方	.266	5	15	15	2	4	3	0	0	0	4	2	0	1	1
植 山	.227	8	25	22	1	5	4	2	0	3	5	6	0	0	1
斉藤(真)	.222	4	10	9	1	2	1	0	0	1	0	2	1	0	0

通算投手成績 (1976年~1982年)

投 手	試 合	回 数	打 者	奪 三 振	被 安 打	四 死 球	失 点	自 責 点	防 御 率	勝 利	敗 戦	セ ー ブ
建 部	56	248 1/3	1129	355	183	73	112	67	1.65	29	9	4
塩 瀬	37	184 1/3	841	171	142	126	130	81	3.08	17	9	0
金 子	21	108 2/3	521	104	100	72	83	52	3.35	8	6	1
鈴 木	11	65	288	53	47	40	41	29	3.12	6	0	0
榎 並	6	22 1/3	100	19	14	19	15	12	3.76	1	1	1
松 本	5	11	71	2	17	14	23	12	7.64	0	2	0
大 橋	2	9	46	6	5	11	6	3	2.33	0	2	0
浅 井 田	1	6 1/3	36	4	4	7	5	4	4.21	0	1	0
刈 本	1	6 2/3	41	7	9	12	11	8	8.41	0	0	0
高 木	1	4 2/3	22	3	5	4	3	2	3.00	0	1	0
鐘 江	1	3	14	0	2	4	1	1	2.33	1	0	0
竹 刈	1	4	15	4	2	0	1	0	0.00	0	0	0
小 松 原	1	1	6	0	3	1	2	1	7.00	0	0	0
チーム計	108	710 1/3	3136	728	539	393	433	272	2.68	62	31	6

(通算打撃成績 続き)

選 手	打 率	試 席	数 得	安 点	盗 塁	球 振	残 本	三 二
神 原	.212	11 44	33 8	7 2	8 0	11 5	7 0	0 2
T. Dickens	.200	5 11	10 0	2 1	1 0	1 7	2 0	0 0
守 屋	.160	15 31	25 4	4 0	8 0	6 13	7 0	0 0
町 田	.143	3 10	7 3	1 1	1 0	3 3	1 0	0 0
田 中	.121	16 45	33 7	4 4	7 0	12 9	5 1	0 0
佐々木	.100	8 12	10 0	1 2	2 0	2 4	3 0	0 0
M. Raths	.045	10 26	22 4	1 1	4 0	4 9	3 0	0 0
川 久 保	.000	7 11	11 0	0 0	0 0	0 5	1 0	0 0
内 藤	.400	2 5	5 0	2 1	1 0	0 0	2 0	0 0
J. Yoong blood	.286	2 8	7 1	2 0	0 0	1 2	3 0	0 0
原	.143	3 7	7 1	1 1	2 0	0 4	1 0	0 0
阿 川 (兄)	.111	5 9	9 0	1 0	0 0	0 2	1 0	0 0
斉 藤 (舊)	.000	3 9	7 1	0 0	1 1	1 2	0 0	0 0

(以 下 略)

チーム計	.228	108 3456	2854 623 651	458 546	18 584	563 717	52 49	122
------	------	----------	--------------	---------	--------	---------	-------	-----

チー ム 総 合 打 撃 成 績

年	打	試	打	打	得	安	打	盜	犠	四	三	残	本	三	二
度	率	合	席	数	点	打	点	塁	打	死	振	塁	塁	塁	塁
1976	.205	3	89	73	8	15	8	6	0	16	8	21	1	0	4
1977	.214	8	256	215	45	46	36	37	1	40	49	52	5	4	10
1978	.174	15	443	363	58	63	41	94	2	78	100	88	3	6	10
1979	.244	17	558	439	101	107	78	70	4	115	106	130	9	8	19
1980	.217	24	759	626	132	136	91	120	4	129	112	160	7	7	28
1981	.257	19	645	541	131	139	94	109	3	101	100	136	11	10	26
1982	.243	22	706	597	148	145	110	110	4	105	88	130	16	14	25
総計	.228	108	3456	2854	623	651	458	546	18	584	563	717	52	49	122

チー ム 総 合 投 手 成 績

年 度	試 合	回 数	打 者	奪 三 振	被 安 打	四 死 球	失 点	自 責 点	防 御 率	勝 利	敗 戦	セ ー ブ
1976	3	20	78	27	5	7	5	1	0.35	2	0	0
1977	8	51	238	55	53	21	50	27	3.71	4	4	0
1978	15	100	446	109	71	69	56	35	2.45	7	4	2
1979	17	108 $\frac{2}{3}$	490	119	102	50	77	52	3.35	10	6	0
1980	24	160 $\frac{1}{3}$	689	141	91	108	62	40	1.75	17	4	2
1981	19	123 $\frac{1}{3}$	560	135	107	61	95	59	3.35	10	7	0
1982	22	147	635	142	110	77	88	58	2.76	12	6	2
総 計	108	710 $\frac{1}{3}$	3,136	728	539	393	433	272	2.68	62	31	6

チー ム 総 合 成 績

年 度	試 合	勝	敗	引 分	総 得 点	総 失 点	勝 率
1976	3	2	0	1	8	5	1.000
1977	8	4	4	0	45	50	.500
1978	15	7	4	4	58	56	.636
1979	17	10	6	1	101	77	.625
1980	24	17	4	3	132	62	.810
1981	19	10	7	2	131	95	.588
1982	22	12	6	4	148	88	.666
総 計	108	62	31	15	623	433	.666

あ　と　が　き

編集後記というのは、すべてが終わった後に書くのだと思うが、しかし、実はこれから金集めをするのだと思うと頭が痛い。とても、すべてが終わったようには見えない。編集中心記である。

編集といえば、一番頭を痛めたのは数字だ。年間 8 試合の年に 10 試合出た選手がいることになっていたりして、びっくりしたことがある。後世に残るものだから正確を期した。

我々の苦勞が実るまで、あとわずかである。表紙の絵や写植文字、新聞縮刷などで多大なご協力をいただいた日本クリエイイト社、そして印刷、製本を引き受けて下さった須田町タイプ社の皆様に、心からお礼を申し上げます。

暮れの納会には出版する予定であったが早くも春、三月。その間には、あの油田選手が 4 年に亘るオーストラリア駐在から帰って来るなどうれしいニュースもある。2 月沼津キャンプでチームのムードも上々、開幕戦まであとわずか。バミューダズの新しい歴史が始まる。(U)

B E R M U D A S

昭和 58 年 3 月発行

編集 100 試合達成記念出版委員会

内山秀敏 藤本和彦 塩瀬正明

建部英敏 鈴木満夫 居山由彦

大橋洋行 渋谷和明

発行 熱狂草野球軍団 バミューダズ

印刷・製本 須田町タイプ社